2019年度事業報告書

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

＜目　次＞

Ⅰ．２０１９年度事業計画への取り組み概要 ---------- １

Ⅱ．重点事業への取り組み ---------- ５

Ⅲ．長中期計画の行動計画より取り組んだ施策 ---------- ８

Ⅳ．広報戦略で今年度取り組んだ施策 ---------- １６

Ⅴ．加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策 ---------- １７

Ⅵ．日本連盟１００周年財政ビジョンで今年度取り組んだ施策 ----- １８

Ⅶ．一般事業の取り組み ---------- １９

１．主として日本連盟に関する事業 ---------- １９

２．団・地区・県連盟への働きかけ ---------- ２６

Ⅷ．各種主要会議の開催 ---------- ２８

Ⅸ．参考（規程等改正一覧） ---------- ３２

Ⅹ．ボーイスカウトエンタープライズ事業報告 ---------- ３４

Ⅰ．２０１９年度事業計画への取り組み概要

１．２０１９年度事業スローガン

２０１９年度は、日本連盟創立１００周年を目指した長中期計画を踏まえ、前年度に引き続き、**「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」　～日本連盟創立１００周年を目指して～**　として、施策と事業に取り組んだ。

２．２０１９年度成果目標

日本のスカウト活動の活性化と加盟員拡大を最大の課題として、重点施策と重点事業を展開し、これらを通じて、とくに２０１９年度は次の成果を目標とした。

（１）新規加盟スカウトの増加促進

① スカウト初年度登録促進キャンペーンによる新規入団スカウトの前年度比１０％の増加を目指す

成果と評価：

過去１５年間の新規加盟スカウトの対前年比は平均９４．２％であったが、２０１９年度は１０５％と目標の＋１０％の目標は達成できなかったもののＶＳ隊以外は昨年対比で１００％を超えた。特にＢＳ隊は１４％、ＲＳ隊は３４％増となった。（２月末時点の加盟登録状況表より）その意味では、スカウト初年度登録促進キャンペーンは効果を得たと言える。なお、指導者に関しては、同様に過去１５年間の平均値は９４．３％であったが、２０１９年度は、８５．４％と低迷した。

（２）中途退団抑止対策

① 登録審査にかかる全団実態調査を行い、必要な支援に着手する。

成果と評価：

全団の調査について、県連盟の協力により「団審査」の実施に関する調査を行った。これについては、実際に審査を行う地区を含めた調査となり、全県連盟・全地区対象単位１６１の内、１０６単位、６５．８％の回答があった。内容をみると「団審査」を実施しているのは、回答から６５％という結果を得られた。団審査は教育規程で定められているが、この実態については県連盟コミッショナー会議でも共有され、次年度に向けて登録前審査を徹底することとした。ただし、「審査」という言葉がマイナスに捉えられる事例もあることから、名称や内容を検討していくこととした。

続いて、全団調査、いわゆる悉皆（しっかい）調査も行った。対象全国１，９８４団の内、１，４８２団、７４．７％の回答が得られた。調査から見えてきた中途退団の傾向から、今後、「必要な支援」の着手を展開していくことになる。これらの調査については、担当の中途退団特別委員会によりまとめられ、報告書をホームページに公開するとともに、全国の各団に内容を伝えていくこととした。

② 全国各地で中途退団抑止セミナーを開催し、退団の抑止を進展させる

成果と評価：

全国９会場（５ブロック）でセミナーを開催、加えて前年度セミナーのフォローアップミーティングを１回開催した。新型コロナウイルス感染への対応から２会場（北海道、東京）の開催を中止した。内容は、回を重ねるごとに見直しを行い、「団診断結果の分析に基づく自団の自己改善策の策定」「存続する組織作り（発展する団運営とは）」「各県連盟の現場状況の把握」などに重きを置いて展開された。

（３）担い手を育成するための基礎づくり

① ＲＳ活動の充実と大学でＲＳ隊発隊を促進する

成果と評価：

日本連盟コミッショナーより各県連盟コミッショナーを通じて全県連盟にＲＳ部門担当者（コミッショナー）の設置を要請した。また、県連盟コミッショナー会議で「サービスラーニング」（社会貢献教育活動）に関する基調講演による情報提供、全国東西２会場でのＲＳ担当者会議（11 月）を開催した。1 月の全国県連盟コミッショナー会議においても次年度に向けて意見交換を行った。

団支援・組織拡充委員会では、大学へのローバー隊設立に向けた更なる情報収集と、「大学

生年代スカウトの活動の活性化を目指した行動について」を全国県連盟コミッショナー会議、全国事務局長会議において提案を行った。また関連して、高校３年生年代を対象とした「人生の岐路に立つ君へ」事業（仮称・実験事業）の提案を行った。今年度の実施にはたどり着けなかったが、次年度から実施できるよう準備を進めている。

② ＲＣＪへの支援を拡大する
成果と評価：
スカウト教育推進会議の開催直前に、ＲＣＪ正副議長と日本連盟正副コミッショナーで意見交換の時間を設定し、課題などについて検討、対応を行った。意思疎通が促進され、次年度に向けても継続していくこととした。

③ 保護者の協力を促進する
成果と評価：
団支援・組織拡充委員会、社会連携・広報委員会、中途退団抑止特別委員会等で「保護者」への協力について検討するとともに各種対応を行った。
団支援・組織拡充委員会では、組織拡充モデル県連盟での保護者等の協力事例、母親世代タスクチーム報告書などを基に、全国大会テーマ集会、全国組織拡充担当委員長会合、講演等でこの重要性についての説明を行っている。

２．重点施策

（1）財政再建及び組織改革に関する基本方針

２０１７（平成２９）年５月の全国大会における奥島孝康理事長による非常事態宣言を受けて、スカウト運動の再興に全力を尽くすため、経営状況の透明化や組織の効率化を進めている。そのため、今後の財政再建や経営体制のあり方について、次の７つの「基本方針」に取り組んだ。

① 登録料の値上げによって財政を立て直し、スカウト運動の質を向上させる
成果と評価：
２０１９年４月からの登録料改定によって、単年度の実質的な経常収支の赤字は解消された。一方で、加盟員の減少に歯止めがかからず、再び経常収支が赤字に転落するが懸念される。そのため、加盟員の増強に今まで以上に力を入れる一方で、抜本的な経営改革に着手した。

② 事業や業務の全面的な見直しを行い、予算の効率化を実現する
成果と評価：
登録料収入が減少することを前提に、事業や業務の全面的な見直しを行い、支出を押さえる必要があるため、各委員長の主導の下、予算の全面的な見直しを行い、事業の遂行方法の見直しを含めた予算の効率化を実行に移している。さらに、会議のペーパーレス化に加え、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した遠隔会議システムの導入実験を始めており、コスト削減を達成している。今後、会議旅費の圧縮などにつながると期待される。また、事務局職員の「働き方改革」を推進し、業務を効率的に進め、残業時間の圧縮や有給休暇の取得促進等にも取り組んだ。

③ 収入の柱のひとつであるエンタープライズの経営を刷新し、安定的に収入を確保する
成果と評価：
経営難に陥っていたボーイスカウトエンタープライズについては、２０１９年５月の諸会議に提出した「ボーイスカウトエンタープライズ改革の最終報告」の通り、２０１９年２月より新組織に移行した。事実上、日本連盟と一体化し「スカウト用品部」として、経営体制を整えた。今年度で過剰在庫の処理をほぼ終え、適正在庫に圧縮できたことから、経営問題は一応のヤマを越えた。さらに、インターネット販売にも着手するとともに、都道府県連盟との契約を見直した。

④ 保有金融資産の活用や企業寄付の獲得など新たな収入の道を確保する
成果と評価：
２０１９年１０月より本郷ボーイスカウト会館の賃貸に伴う定額受け取りが始まり、２０２０年度は３０００万円程度の純収入の増加となるなど増収策に取り組んだ。ＣＳ部門の新チャレンジ章（通称：コラボレーションバッジ）の導入によって企業からの協賛金が増加したうえ、スカウトプ

ログラムへの理解が深まったことにより、アグーナリーへの協賛など、大きな成果をあげた。

⑤ 高萩スカウトフィールドの活用方法を具体的に示す
成果と評価：
高萩スカウトフィールドは将来にわたって財政を圧迫することがないよう、加盟員に積極的に利用してもらえる施設にすることが必要不可欠であることから、プログラム委員会の下に「高萩スカウトフィールド活用タスクチーム」を設置し、常設プログラムの実施を含めて活用促進について検討し、提案書（答申）をとりまとめ、３月理事会に提案した。

⑥ 理事会の執行体制の明確化など組織体制の見直しを行う
成果と評価：
経営を担う運営系担当理事と教育を担うコミッショナー以下の理事の役割分担を明確にした。財務、団支援・組織拡充、社会連携・広報の３委員長と専務、常務理事による運営系委員長会合を２カ月ごとに開催し、経営課題の洗い出しや改善策を議論したうえで、運営会議を通じて理事会に各種改善提案を行った。

⑦ 日本連盟の経営情報の透明化を進め、関係者の声を聞く
成果と評価：
各ブロック会議に専務･常務理事等の法人経営面の中心役員が出向き、経営情報について早期に公開することとした。また、加盟員への情報の早期公開を進めるために、日本連盟のホームページを全面刷新し、情報提供の仕組みを一新した。

（2）日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

２０２２年の日本連盟創立１００周年までに達成する長中期計画については、２０１９年度は５年目を迎え、次の１２項目の行動計画に沿った取り組みを行った。

① コミッショナーの充実、② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)、
③ 指導者養成、④ 地域コミュニティづくり、⑤ プログラムの見直し、⑥ 登録制度の見直し、
⑦ スカウティングにおける成人の役割、⑧ 情報伝達手段の刷新、⑨ 組織体制の検討、
⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ、⑪ 公益事業の取り組み、⑫ 野外活動施設の確保
（成果と評価：Ｐ．８～１５参照）

（3）加盟員拡大･組織拡充に向けた取り組み

加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の３項目を重点的に取り組んだ。

- 加盟員獲得に向けた広報戦略の展開・スカウト活動のユニークさをアピール
- 団診断による団への支援と新団設立への取り組み
- 中途退団抑止のための支援

（成果と評価：Ｐ．１６～１７参照）

（4）安定した運営

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の４項目への取り組みを進めた。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強
- 財政ビジョンへの取り組みと加盟登録料改定
- 世界・地域との連携

（成果と評価：Ｐ．２～３参照）

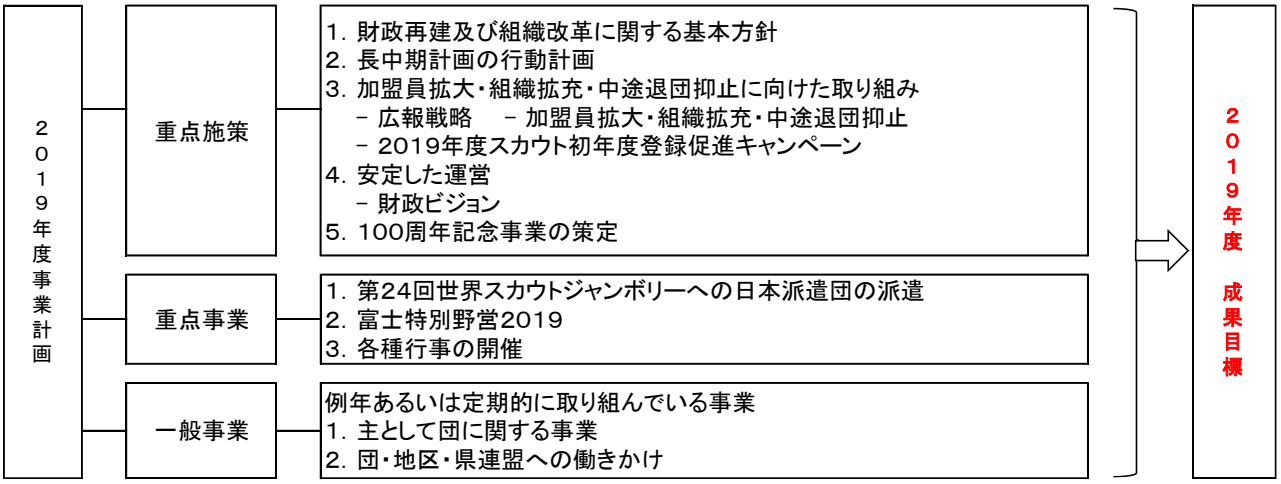
（5）100周年記念事業の策定

日本連盟創立１００周年まで４年となる記念事業の様々な計画の検討を進めた。

- 記念事業の策定と準備
- 第１８回日本スカウトジャンボリー（２０２２年）の会場決定

事業体系

事業計画体系



３．新型コロナウイルスへの緊急対応

２０２０年２月に拡大が懸念されてきた新型コロナウイルス感染について、政府基本方針に則り、感染拡大防止の取り組みを次の通り対応した。

（１）県連盟に対して

①２月２１日「新型コロナウイルス感染への対応について(緊急)」で注意喚起を発信。
②２月２５日「新型コロナウイルス感染への対応について(第２報)」で２月２５日から３月８日までのスカウト活動の自粛することを連絡。
③３月３日「新型コロナウイルス感染への対応について(第３報)」で自粛期間の延長を連絡。
④３月２１日「新型コロナウイルス感染への対応について(第４報)」で４月５日まで活動の自粛延長を連絡。
また、進級と指導者養成事業についての対応として、
⑤３月１０日「新型コロナウイルス感染への対応による活動自粛期間の進級について」、
⑥３月３１日「指導者養成事業の中止および延期について（新型コロナウイルス感染への対応)」を連絡した。

（２）日本連盟運営組織に対して

①２月２６日に各種委員会の委員長および委員宛に３月８日までの事業(会議、行事)はすべて中止あるいは延期するよう要請した。
②２月１７日に事務局長より、事務局職員に対して注意喚起の発信。
③２月２７日に事務局職員が罹患した場合などの対応について発信。

（３）感染防止のための基幹会議等での対応

開催を極力延期することとしたが、基幹会議（理事会、評議員会）については、議事進行の見直し、会場の換気、アルコール消毒対応、マスク用意に加え、オンラインや電話での参加について、内閣府に相談しながら開催した。

Ⅱ．重点事業への取り組み

1. 第24回世界スカウトジャンボリー派遣

７月２２日から８日２日までアメリカ合衆国ウエストバージニア州サミットベクテルで開催の第２４回世界スカウトジャンボリー（２４ＷＳＪ）に次のとおり日本派遣団を編成し派遣した。

事業の内容：
参加大会：第２４回世界スカウトジャンボリー（24th World Scout Jamboree）
世界スカウト機構（ＷＯＳＭ）主催
カナダスカウト連盟、メキシコスカウト連盟、ボーイスカウトアメリカ連盟がホスト
１４６の国と地域から約４２，０００人が参加
大会期間：２０１９年7月２２日（月）～8月２日（金）１２日間
テ ー マ：Unlock a New World　「新世界の扉を開こう」
派遣期間：〈ＩＳＴ〉　２０１９年7月１９日（金）～8月６日（火）１９日間
〈参加隊〉　２０１９年7月２１日（日）～8月５日（月）１７日間
派遣人員：合計１，２０７人
＜内訳＞　参加隊２８隊　スカウト９９５人、指導者１１３人、計１，１０８人
国際サービスチーム員（ＩＳＴ）７０人
派遣団本部員（ＣＭＴ）２９人
分団編成：日本派遣団の２８こ隊は、出発・帰国地および人数を考慮し、５つの分団を編成した。
〈Ａ分団〉　成田または羽田空港発着　　第 １ 隊～第 ８ 隊
〈Ｂ分団〉　成田または羽田空港発着　　第 ９ 隊～第１６隊
〈Ｃ分団〉　中部空港発着　　第１７隊～第１９隊
〈Ｄ分団〉　関西または伊丹空港発着　　第２０隊～第２５隊
〈Ｅ分団〉　関西空港発着　　第２６隊～第２８隊

成果と評価：
- 参加スカウトは広大なキャンプサイトの多くのプログラムに積極的に参加し、多くの冒険、経験、そして友情を深めることができた。
- 大会中日の文化交流日には、隊ごとに日本食のランチを提供し、また日本の習字、けん玉、折り紙などで周りの外国隊との交流深めた。
- 日中は晴れていれば相当の高温になり給水アドバイスを含め、どの程度の暑さかを４つのクラスに分けて放送し注意と給水を促していた。
- 一番危険なのは落雷警報で、東の２つのサブキャンプと中心部を繋ぐ鉄橋が通行不可となり、幾度か短い警報があったもののほとんど大きな影響がなかった。
- ７月２３日の開会式には、航空便欠航の影響で第２１隊の２０人が参加できなかった。
- 退場時に主催者側が提供するシャトルバスでシャーロット空港まで移動する第１、３、４、５、６、７、８、１４、１７、２１、２２、２３、２４、２５隊の１４こ隊が閉会式開催中の８月１日２０時に各サブキャンプを出発し、閉会式に参加出来なかった。閉会式に参加出来なかった派遣団は４４カ国で約３６００人となり、各派遣団は大会本部に閉会式の時刻変更と退場時間の調整を要求したが、実現出来なかった。
- 派遣団員全員が無事帰国し派遣を終え、別途報告書をとりまとめた。

2. 富士特別野営2019

８月１０日から１６日までの７日間、那須野営場から高萩スカウトフィールドまでの移動野営を含むプログラムにより実施した。本事業は、参加者がスカウト運動の基本である野外活動（野営）を通じて、その重要性を確認し、班制教育を通じての「教わること」「学ぶこと」を再確認する機会として開催した。

事業の内容：
期　　間：２０１９年8月１０日（土）～１６日（金）　６泊７日
場　　所：ボーイスカウト日本連盟　那須野営場および大和の森　高萩スカウトフィールド
参 加 者：スカウト１７県連盟３７人（男子２３人・女子１４人）、隊指導者・上級班長５人、

大会本部・スタッフ　３２人、ローバースカウト年代　９県連盟１１人
協賛協力：協賛　アイコム株式会社（無線機の供給）、茨城県信用組合（寄付金）
協力　ミズノ株式会社（大会ポロシャツの作成）、森ビル株式会社（食材の提供）、ボーイスカウト茨城県連盟（食材の提供）　順不同

成果と評価

- 参加スカウトについて１７県連盟から参加を得たが、当初期待した参加者数には至らず、１隊編成での実施展開となった。
- 設定された想定のもとでプログラムを展開し、那須野営場から高萩スカウトフィールドへの移動プログラムや、高萩スカウトフィールドに於いてスカウトスキルを活用した活動的なプログラムを展開できた。
- 移動プログラムについては、スカウトの経験不足からくる装備の不具合や、スキル不足によるプログラムの遅延などがあり、参加の準備等事前にスカウトの所属隊へ働きかけをすることの重要性を確認した。また、予想以上の高気温やスカウトの体力不足により、移動中に体調を崩すスカウトが出てしまった。
- 高萩スカウトフィールドに移動後は、滝エリアにて固定野営を展開したが、未開拓のサイトで生活することを通じてスカウトスキルが向上し、自ら開拓する楽しさを体験した。また、開拓作業の結果として、滝エリアの整備を進めることができた。
- 最終日前日の夜に、大営火と閉会式を実施した。閉会式中に大雨に見舞われたが、すべてのスカウトに完修証が授与された。

３. 各種行事の開催

（１）全国大会

２０１９年度全国大会については、次のとおり実施した。

事業の内容：

期　　間：５月２５日（土）～２６日（日）
場　　所：鹿児島県「鹿児島市民文化ホール」他
参 加 者：７４３人（来賓他含む）
内　　容：１日目

- 日本連盟からの各種報告等・年次表彰・全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・ＲＣＪ総会・交歓会

２日目

- 全国スカウト教育会議（８つのテーマ集会）【参加者合計３７４人】
  ①１００周年に向けて加盟員増加を目指して！（参加者９０人）
  ②部門の見直しに伴うプログラム実証の取り組みについて（参加者５６人）
  ③すべての指導者にスカウトスキルを～スカウトスキルを使って楽しい活動を～（参加者４５人）
  ④実践しようセーフ・フロム・ハーム ～スカウトたちの笑顔のために～（参加者３８人）、
  ⑤次世代につなげるスカウト運動セミナー（参加者１２人）
  ⑥ローバー対象セミナー・世界のローバーはどんな活躍しているのか（参加者８１人）、
  ⑦（鹿児島県連盟提供①）薩摩の郷中教育とボーイスカウト（参加者４１人）
  ⑧（鹿児島県連盟提供②）鹿児島県連盟野営場と薩摩藩英国留学生記念館見学研修ツアー（参加者１１人）

両日

- ２日間にわたって行ったスカウティングエキスポでは、加盟員有志、諸団体、地元物産他多くのコーナーを設置
  ・スカウティングエキスポには、２１のブースに加え、ステージプログラムも開催し、加盟員以外からも多くの来場者があった。

８月以降、２０２０年度全国大会（神奈川県横浜市）の準備を開始した。

（２）ＲＣＪフォーラム

１０月に開催を予定していたＲＣＪフォーラムは、運営委員会を編成して２回の会議とオンラ

インミーティングにより開催の準備を進め、参加者１２８人がエントリーしたが、非常に強い勢力の台風１９号の上陸・接近により開催地域が暴風域になる恐れや全国から集まる参加者の交通機関への影響を鑑み、改めて施設の確保ができないため延期ではなく中止した。参加者予定者には、記念品を送付（手数料、送料は連盟負担）することとし、参加費のうち記念品代を除いた額を返金した。

（３）日韓スカウト交歓計画

期　　間：２０２０年1月１１日（土）～１９日（日）９日間
場　　所：大阪、兵庫、京都
人　　数：韓国参加者［指導者５人、スカウト３５人］／計４０ 人
　　日本参加者［３日間の交流プログラム参加］／計４６人
　　スタッフ（全行程の同行者、交流プログラム、見学プログラム奉仕者）／計５０人
日　　程：１月１１日（土）韓国参加者到着・開会式・日韓スカウトによる交流
　　１月１２日（日）日韓スカウトによる交流
　　１月１３日（月）日韓スカウトによる交流、日本参加者解散
　　１月１４日（火）韓国参加者　兵庫での見学（社会・歴史・文化・芸術・科学技術）
　　１月１５日（水）韓国参加者　大阪での見学（社会・文化・科学技術）
　　１月１６日（木）韓国参加者　京都での見学（歴史・文化・芸術）
　　１月１７日（金）韓国参加者　大阪での学校見学及び生徒との交流（教育）、
　　ホームステイ（大阪府内）
　　１月１８日（土）　韓国参加者　ホームステイ
　　１月１９日（日）　韓国参加者　ホームステイ終了・帰国

成果と評価：

- 交流プログラムに参加した日韓両国のスカウトは相互理解を深めながらＳＤＧｓを主題としたフォーラム形式の交流プログラムにより、ＳＤＧｓに取り組む意義と日韓両国におけるＳＤＧｓの現状と課題について知り、両国スカウトによる共同が重要であることを確認することができた。日韓参加者の９５％がプログラムの内容をとても良い・良いと評価した。
- 兵庫、京都、大阪の各地見学により、韓国スカウトは日本の行政、教育、企業のＳＤＧｓへの取組を学ぶことができた。また日本の歴史や文化を知ることができた。韓国参加者の９９％がとても良い・良いと評価した。
- 大阪で行なったホームステイにより、韓国スカウトとホスト家庭は交流を行いながら日韓文化の違いや共通点を学ぶことができた。韓国参加者の全員がとても良い・良いと評価した。
- 交流プログラムの企画運営に近畿ブロック内の県連盟より多くのローバースカウトが携わり、若者の意思参画が促進された。また、関係した県連盟の連携が強化された。

Ⅲ．長中期計画の行動計画より取り組んだ施策

1．コミッショナーの充実

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
1-1	【更新】 地区コミッショナーへの支援	・地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り ・ラウンドテーブルの研究及び充実化を図る ・日本連盟施策の説明会の開催				○	→	→	→	コミッショナーチーム
1-2	【更新】 コミッショナー研修の充実	・コミッショナーの質的向上 ・指導者養成委員会との協働				○	→	→	→	
1-3	【更新】 団担当コミッショナーの検証	・団担当コミッショナー制度改廃の検討				○ 検討				
1-4	【更新】 団診断に基づく各県連盟への支援	・県連盟コミッショナーと共同した支援 ・中途退団抑止特別委員会との協働 ・団審査の確実な実施推進と分析				○ 実施	→	→	→	
1-5	【更新】 コミッショナー制度(県・地区)の全般的な見直し	・任務、業務の見直しと再検討 ・各役務別に求められる知識・技能の見直し				○ 検討	○	→	→	

コミッショナーの充実に関して、2019 年度に前年度までの達成状況を整理し、次の 5 項目に全国県連盟コミッショナーと連携して取り組み、全国県連盟コミッショナー会議の検討テーマに含みながら展開した。

１－１について
- 年間を通じて、日本連盟コミッショナー方針として、「団診断Ｃ・Ｄ団への支援」を掲げ、各県連盟コミッショナーにより当該団の現状把握を行い、各団（隊）への支援策の検討、実施を展開してきた。
- 地区コミッショナーが各隊、団を支援するためのツールであるラウンドテーブルについて、現状にあわせたテーマや開催方法を研究のうえ、提供していくことし、神奈川、愛知、京都連盟の協力の下、県連盟内での開催状況（回数、テーマ設定等）などの把握に務めた。
- 各ブロックでのコミッショナー会議に日本連盟コミッショナーが参席して、コミュニケーションを促進しながら日本連盟施策の説明を行った。

１－２について
- コミッショナー任務別研修について、指導者養成委員会を中心として内容を検討した。次年度に実際訓練コースを展開する。

１－３について
- 団担当コミッショナーについて、県連盟コミッショナーとの協働により検討を行い、「団担当コミッショナーは各県連盟の体制により設置できる」こととした。
- 今後、規程改正を行うとともに、県連盟が行う「団への支援」を明確化し、団担当コミッショナーを設置しない場合において、地区や県連盟コミッショナーが対応すべき内容も明らかにしていくこととした。

１－４について
- 団審査（団診断）について、中途退団抑止特別委員会による全国調査を活用しながら、県連盟コミッショナーと協働を行った。団審査が十分に行われていな県連盟については、次年度に向けて実施の徹底を図るとともに、これまで継続してきた団カテゴリーのＣ、Ｄ団への県連盟からの支援を強化していく。全団調査は次年度も実施することとした。

１－５について
- コミッショナー制度の全般的な見直しは、上記を踏まえながら検討を行ってきた。

2．質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	問題解決のため、受付窓口を設定し、対処する組織整備を行う。	○	○	○	完了				SfH安全 コミ 社・広
2-3	普及、啓発のための研修、ツール開発。Eラーニングの活用	普及を図るためツールを作成し、提供する。	○	○	○	○	○	○		SfH安全
2-4	抑止力の検討と広報活動	危害を起こさぬ機運づくりと広報活動（PR動画発信・機関誌記事掲載等）による繰り返しの周知行動を起こす。	○	○	○	○	○	○	○	SfH安全 社・広

２－１は、２０１８年度末までに達成したので、２０１９年度の取り組みから除外した。

２－２について
・「登録前研修」については、今年度よりローバースカウトにも取り組んでいくこととし、研修の周知徹底を行うとともに、相談窓口への各種の通報に対して県連盟を通じた問題解決に取り組んだ。
・各県連盟に公開した対応マニュアルに関して、県連盟での担当者設置の依頼をし、県連盟での取組み強化を促進させた。

２－３について
・各県連盟および地区においては、「セーフ・フロム・ハームセミナー運営ハンドブック」を活用した研修会を開催し、指導者が思いやりの心を育み、セーフ・フロム・ハームに関わる危害防止の意識を高めることに取り組んできた。
・セーフ・フロム・ハーム推進フォーラムを年度後半に実施したが、新型コロナウイルス感染防止のために一部中止を余儀なくされた。
・毎年登録前研修として活用されるＥラーニングについてシステムの向上を図った。
・スカウト自身が取り組める「思いやりを育む教育」として、昨年度に引き続き、教材の開発を行い、ボーイ、ベンチャースカウト向けの教材を提供した。これにより、スカウトや保護者から信頼される指導者の情操面の養成に努めた。
・来年度は各年代を対象にした啓発資料も用い、スカウトへの啓発活動を展開していく。

２－４について
・抑止力につながる「セーフ・フロム・ハーム」対応規程について検討のうえ、制定した。
・スカウト活動において様々な危害等が発見された場合に、早期対応と是正、ならびに再発防止を行うことを目的として、「セーフ・フロム・ハーム」対応規程を制定した。
・「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会により、安全・思いやりの教育に関する啓発記事を『スカウティング』誌で毎号掲載し、ＷＥＢ版にも掲出した。

３．指導者養成

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
3-1 3-2	1. ボーイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する	訓練及びインサービスサポートによって、プログラムの充実を図り、他項目の達成と連携して達成する。 全指導者のスカウト技能の修得とそれらを用いたプログラム企画力の向上を進める。		○	○	○	○	○	○	指導者養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設（長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神（スピリット）の体得。）	スカウト技能の修得及びプログラムへの展開。コース内容の研究・開発、実施。	○	○	内容再検討	○	○	○	○	ﾀｽｸﾁｰﾑ
3-5	指導者の更新研修の確立	更新コースの研究・開発。		○	○	○	○	○	○	ﾃﾞｨﾚｸﾀｰﾁｰﾑ
3-6	任務別研修の実施（必要な人に必要な訓練を行う	コミッショナー、理事等に対する訓練開発を行う。実施についてはコミッショナーが担当する。		○	○	○	○			ﾀｽｸﾁｰﾑ
3-7	【新規】 トレーナー制度の改革	トレーナーの役割分担を明確にすることで、トレーナーの活用を効率化すると共に、トレーニングチーム全体の底上げを図る。	検討	検討	一部実施	一部実施	実施	実施	実施	ﾀｽｸﾁｰﾑ

３－１～３－３について
・ＢＳ・ＶＳ部門の進級課程が改定されたことに伴い、隊指導者上級訓練（ウッドバッジ実修所）を改定し、新しい内容で実施した。特にＢＳ・ＶＳ課程については、「１級旅行」（１級章）や「移動キャンプ」（隼章）、「単独キャンプ」（富士章）の要素を取り入れ、４泊５日で開設した。体験の機会を増やしたことで参加者のスカウトスキル面の課題が顕在化したが、ＢＳ課程では「１級旅行」を終えた参加者は皆達成感に満ちていた。
・導入訓練課程（ボーイスカウト講習会）について、修了者が実践的なスカウト運動の本質を体験できる基礎訓練課程への参加が促進されるよう、次年度からの内容を改定した。総時間数やセッション数は変えることなく、セッションは現行の内容を基調としてより活動を体験できるような内容に見直した。また、現代社会の特性および日本のスカウティングが置かれている状況等を考慮し、２０歳代から３０歳代の参加者にも興味が持てる内容とした。
・本年度のウッドバッジ研修所は、基本型での開設は、スカウトコース２６コース、課程別研修ＢＶＳ課程２４回、ＣＳ課程３０回、ＢＳ課程３１回、ＶＳ課程２５回となった。一括型での開設は、８コースとなった。団委員研修所は１５コース、コミッショナー研修所は３コースの開設となった。どの研修においても隊指導者としての任務遂行への意識を高めさせ、研修終了後も自己研鑽が必要なことから、継続した支援が必要である。
・３－３「基礎訓練を全課程で共通化」は２０１８平成３０年度で完了したので、２０１９年度事業計画から削除した。

３－４について：完了
・過去２回（２０１６年、２０１７年）の試行を踏まえて、定型訓練として日本連盟開設でウッドクラフトコース第１期を開設した。
　ウッドクラフトコース第１期（日本連盟開設）
　期　間：令和元年９月２１日（土）～２６日（木）
　場　所：高萩スカウトフィールド

修了者：１５県連盟３７人
・参加条件をウッドバッジ実修所修了者に拡大したことで、トレーナーに加えて多くの指導者が参加し、スカウトスキルを活用した各クラフトに取り組んだ。
・過去２回の参加者とスタッフ、および第１期のスタッフに対して、定型訓練としてのウッドクラフトコースの修了を認定した。

３－５について
・研修受講の必須性（規程化）や更新期間・研修内容などを含め、引き続き検討を行っている。まずはコミッショナー任務別研修を対象とすることで検討している。

３－６について
・コミッショナーを対象とした研修について、タスクチームを編成して訓練体系から見直した。全役務共通となるベーシックトレーニング（３泊４日の野営）と、各役務別に実施する任務別研修（２日間の通いもしくは舎営）で構成される内容とする。
・任務別研修については、集合研修の他に e-ラーニングなどを用いた個別で取り組む研修についても検討している。
・令和２年度は、ベーシックトレーニングおよび任務別研修（県連盟コミッショナー課程、地区コミッショナー課程）を、全国４県連盟にて開設する。
・団担当コミッショナーの研修については、役務や求められる資質を整理したうえで、令和２年度に検討する。

３－７について
・毎年提出する「トレーナー活動報告書」、および継続委嘱時に提出する「トレーナー任務達成目標・成果シート」の様式を改定し、評価内容を充実させた。
・トレーナー研究集会のあり方やその内容について、見直しを引き続き検討する。
・トレーナーの役割やカテゴリー区分を整理し、見直しを引き続き検討する。

4．地域コミュニティづくり

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	23WSJで連携した折鶴キャラバン、平成28年度の防災キャラバンを活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。	○	○	○	○	○	○		団支援・組織拡充社・広
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発団させる。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。	○	○	○	○	○	○		役員事務局
4-4	防災活動の地域連携による取り組み	国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。	○	○	○	○				SfH安全防災・危機

４－１について
・団支援・組織拡充委員会では、社会連携・広報委員会と連携し、防災キャラバンへのサポートを実施している。昨年度に引き続き、組織拡充モデル県連盟の防災キャラバンにおいては団支援・組織拡充委員が現地で普及、募集活動の支援を進めている。
・社会連携・広報委員会では、全国防災キャラバンを今年度も全４７都道府県連盟の協力を得て、イオンモールほか６８会場で実施。合計およそ３万人の来場家族に防災体験機会を提供した。各県連盟でもイオンモール各店舗との連携や消防等とのコラボ等の試みも広がり、地域社会とのつながりを強めながら、新規加盟員の獲得にも繋げるよう試みた。令和２年度も継続実施を予定し、文部科学省の後援を得た。

４－２について
・団支援・組織拡充委員会では、組織拡充モデル県連盟への継続的支援、大学へのローバー隊設立に向けた更なる情報収集の他に、「大学生年代スカウトの活動の活性化を目指した行動について」の提案を行った。

４－３について
・組織拡充モデル県連盟等において、自治体首長を訪ねて協力を要請している。

４－４について
・防災・危機管理タスクチームにより検討してきた内容についてとりまとめを行い、２０２０年３月の理事会に「防災危機管理に関する検討事項報告」として提出した。内容は、「スカウトとしての地域への貢献」を基に「スカウトの存在価値を高める」とのできる活動を構築することを目標に検討されてきた「防災教育」、「広報・啓発活動」、「災害支援（対応）」の課題について取りまとめた。
・上記とりまとめに先立ち、県連盟コミッショナーの協力により「防災意識調査アンケート」を実施し、検討内容に反映させた。
・防災教育：技能章「防災章」の新設　プログラム委員会と連携して設定することができ、指導員・考査員のヒントや資料の提供を図れた。

・啓発・広報活動：スカウトによる救助操法　スカウト技能を用いて行える災害時などにもつながる救助活動を一連の想定、対応を定型化しデモンストレーション（実演）するものにとりまとめた。競技性もあり、今後、全国での取組みができるよう発信していく。
・災害支援（対応）：県連盟による災害支援（対応）についての整理　整理内容に基づき、今後、各県連盟での検討、対応ができるよう発信、支援を行う。

5. プログラムの見直し

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	○	○	○	促進				プログラム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。	○	○	移行	促進				
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-6	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エントリー部門)、CS部門、BS部門（現行BS＋現行VS）、RS部門（研究・社会貢献部門）。 現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○	継続				

５－３は、２０１８年度末までに目標を達成したので、２０１９年度の取り組みから除外した。

５－１について
・年度末より全国県連盟に依頼し、７県連盟１５団をＢＳ・ＶＳ部門プログラム実証団に選出、次年度に向けた年間計画の準備を進めている。担当プログラム委員の他、本実証に関するタスクチームと共に、プログラム実証の展開や部門の見直しについて検討を進めた。
・ハンドブック・ペーシックは編集作業を終え、１０月より販売を開始した。初版の誤植や記載内容の訂正を行い、年度内に２刷までの発行準備を行った。ハンドブック・アドバンスはタスクチームによる原稿作成を終え、プログラム委員を交えた編集会議を開始、年度内に発行業者へのデータ提供を完了できるように準備を進めた。

５－２について
・ＢＶＳ・ＣＳ部門プログラム検討タスクチームを設置し、部門の見直しを含めたプログラム実証について取り組みを開始し、改めて浮き彫りとなった課題やプログラムヒントにつながる各団の取り組み事例の集約を行ってきた。
・実施年度について、２０１９（令和元）年度終了としていたが、プログラム実証団による検証情報が不足していることから、次年度まで継続とし、次年度中にタスクチームとしての答申をまとめていく。
・ＢＳ・ＶＳ部門プログラム検討タスクチームを設置し、進級課程のシームレス化に伴うプログラム実証の取り組み内容の検討に着手した。
・実施年度について、２０１９（令和元）年度から開始し、２０２０年度内でのプログラム実証団による検証情報を集約し、次年度中にタスクチームとしての答申をまとめていく。

５－４について
・新チャレンジ章について、今年度は、再生エネルギーに関するプログラムと腸や細菌について学ぶプログラムの新たな２章を追加し、合計５種類のプログラムを提供した。年度開始前の３月からの申込みを受け付け、４月には配付することができ、昨年度よりも効率的に年間計画へ組み込むことができた。また、年度途中より、ＳＴＥＭ教育と野遊びを考えるプログラムを検討し、次年度に向けて新たな２章を追加し、受付を開始することができた。引き続き、プログラム委員会、社会連携・広報委員会の連携により、取り組みを進める。
・世界スカウト環境バッジに関連して、国立公園におけるカーボン・オフセットキャンペーンは、全国１２会場で２６団約３５０人の参加を得て実施できた。
・世界スカウト環境バッジの促進として、本キャンペーンを展開しているが、目に見える形でのバッジ販売個数の増加は無く、継続した全国への取り組みの周知と実施依頼を進めていく必要がある。
・社会連携・広報委員会では主に企業との連携機会の開拓と調整に努め、前年度から取り組んできた３社と新規４社計７社との連携を行い、財政面への寄与にもつなげた。「Ⅳ.広報戦略」の項で後述。

５－５について
・高萩スカウトフィールド活用タスクチームの設置を行い、昨年度より都合３回の現地調査を行い、７８個の常設プログラムとその展開に合わせたスカウトフィールドの整備計画について答申を行った。プログラム委員会としても継続した検討を行い、スカウト教育推進会議・理事会への提案を行った。
・次年度に向けた取り組みとして、プログラム委員会所管の富士特別野営の内容については、継続検討とした。

５－６について
・この項目は今年度中の達成目標であったが、前述の部門の見直しを含めたプログラム実証を進めていることもあり、４部門への移行検討は次年度も継続する。５－２と共通するところが多く、事業と課題の整理を行う。
・中途退団が大きな課題となっている中、中途退団抑止特別委員会による全団調査の結果から「現行」部門への支援が必要であることとし、移行検討のための研究は進めていくが、現行ＣＳ部門などへの支援、強化を並行して行っていくこととした。

6. 登録制度の見直し

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討	BSの班制教育を基準とする班(組)のあり方と最小人数を探る。	○	○	○	○	○			団支援・組織拡充 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｺﾐｯｼｮﾅｰ 財務 社・広
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方	少子化による人数の少ない隊のあり方を探る。	○	○	○	○				
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録)	部門見直しに伴う登録の仕方、登録費等の検討をする。(BVS.RSの登録費について)	○	○	○	○				

６－１、６－２について
・「加盟登録制度改定の検討開始に向けて」の提案を行い、各種会議等からの意見を求め、次年度以降に具体的に入ることとした。

６－３について
・今年度「登録システムタスクチーム」を編成したが、部門の移行を継続検討中であることから、具体的検討は次年度以降となる。
・各項目につき団支援・組織拡充委員会と検討はしているが、新たな制度の提案には至っていない。長中期計画では今年度終了予定であったが、２０２１年度まで検討を続けるよう来年度の事業計画を更新した。(表は２０２０年度事業計画で更新)

7. スカウティングにおける成人の役割

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
7-2	インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)	コミッショナーの依頼を受け、トレーナーの定型訓練外の活躍場所として機能させる。	○	○	○	○	○	○		ｺﾐｯｼｮﾅｰ 指導者養成
7-3	【更新】 県連盟単位での国際交流を戦略的に推進する	県連盟での国際交流を支援するため、国際活動サービスチームの強化を図る。				○	○	○		国際
7-4	【更新】青年の意思決定への参画を促進する	各委員会へのRCJからの参画を検討する。				○	○	○		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｺﾐｯｼｮﾅｰ 国際
7-5	【更新】 APR、WOSMとの関係強化により人材育成を進める	APRで実施している青年代表グループ(YAMG)の国内での組織化を検討する。同時にSDGsやMoPへの取り組みにより強化を図る。				○	○	○		

２０１８年度までの７－１、７－３～７－５は、一定の成果により内容を整理したため、更新して２０１９年度事業計画に取り組んだ。

７－２について、
・隊指導者の日常の活動に対するトレーナーの個別支援が指導者の資質の向上に資する取り組みとして、適切な支援ができるよう、今後も全国県連盟コミッショナー会議やトレーナー研究集会などにおいて、インサービス・サポートの推進を奨励し、トレーナー研究集会では「成人指導者への支援」をテーマに、様々な視点からの支援方法を研究した。
・インサービス・サポートを、コミッショナーと団委員長を中心に進めるよう、取り組み方について検討している。

７－３について、
・県連盟での国際交流を推進するため、国際委員会では、団・地区・県連盟によるスカウトの海外派遣、外国スカウト受入計画の申請に対する承認を行った。
・国際活動サービスチームは継続して編成しているが、２０１９年度は具体的な活動がなかったため、２０２０年度からの課題となる。

７－４について、
・ＲＣＪ運営委員会のメンバーが全国大会、スカウト教育推進会議等に出席・参席する等、日本連盟での参画の機会を設けている。また、企業への協力依頼を進める中で、加盟員以外に理解者を増やしている。
・ＲＣＪ運営委員会の正副議長と日本連盟正副コミッショナーの定期的な会合をもち、意思疎通の促進を図った。これにより事業計画など円滑に進めることができた。
・この項目は、次年度から発展させ「青年の意思決定への参画促進」として２０２１年度まで継続する。

７－５について

・ＹＡＭＧのメンバー推薦について、ＲＣＪ運営委員会によりその推薦条件の提案を作成した。国際委員会・プログラム委員会において検討のうえ、スカウト教育推進会議で内容の承認を得て、任期途中ではあるが、２０１９年‐２０２０年任期のＹＡＭＧメンバーへ、ＲＣＪ運営委員会より推薦した。

・ローバースカウト年代のネットワークを活かして情報を共有し、参加者を募り派遣を実施した。この項目は、「ＡＰＲ、ＷＯＳＭとの関係強化による人材育成」に発展させ、２０２１年度まで継続する。

・常設委員会委員が関係するＡＰＲ小委員会委員としての任務を通して、地域および各国との連携とっている。今後、プログラムに関連する委員会の連携も強化を行う。

・新たな人材の発掘という点から、世界的に取り組んでいるＳＤＧｓ、ＭｏＰへの参加が促進できるよう記章着用などの整備を行った。

・日本連盟として、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）達成のための取り組み表明として、日本連盟ホームページでの情報掲載と、『スカウティング』誌への掲載を行っている。次年度についても引き続き、情報発信を行いつつ、事業計画においても、ＳＤＧｓの取り組みをより重要な位置づけとする予定である。

８．情報伝達手段の刷新

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる	タスクチームを設置し、ICT活用実行に向け、取組を展開する。 目標 ①紙文書や郵送費の削減と情報の迅速化を図る。 ②TV会議等の導入により会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。 ③全ての会議は、タブレットを使用する形式の確立。等	○	○	○	○	○			事務局 社・広 他
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信									
8-3	グループウエアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有									

８－１について

・隔週で開催してきた社会連携・広報委員会の定例会では、会議のペーパーレス化は年度当初より完全実施済。ネット回線を用いたオンライン会議方式による遠方の委員の労力軽減と旅費節減を実現。年度最後の会議はコロナウイルスの流行期にあたり、多くの会議会合が中止となったなか、委員会機能を維持しつつ感染拡大防止にも努めるべく近郊在住の委員、事務局も含め全員自宅からのオンラインで総勢１７人参加により開催。３時間ほぼストレスフリーでのオンライン会議が実施可能であることを実証した。

・「スカウティング」のＷＥＢ版については、２０２０年１月号よりさらに毎号の個別の記事を連盟ホームページの個別トピックとして掲載することをスタートし、保護者層など本誌配布対象外関係者への情報普及に努めるとともに有用な記事のネット上のアーカイブ化を開始している。

８－２について

・２０１９年２月に全面改修した加盟員向けＷＥＢサイトを随時改善。加盟員のへの情報提供の円滑化に努めた。これによりＷＥＢサイトの来訪者は前年度比約１４０％となっている。「Ⅳ.広報戦略」の項で後述。

８－３について

・グーグルドライブを用いた会議資料の共有のほか、タスク共有、会議中の資料同時閲覧、相互提供など昨年度から完全に実用しており、導入段階はすでに終えている。

９．組織体制の検討

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進行を監視するチームをつくる。	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り(「企業連携」「公益性」を意識した組織)	企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。	○	○	○	○	○	○		事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。	○	○	○					事務局
9-4	100周年基金の設立	基金を設立し、社会貢献に繋がる事業をめざす。	○	○	○					事務局

９－１について

・「財政再建及び組織改革の基本方針」に沿った組織体制の見直しを進めるとともに、政策等の進捗管理担当理事を置き、必要な組織的対応を進めている。

９－２について
・創立１００周年に向け企業等からの協力が得られるよう、１３ＮＡ協賛やその他の協働事業等を得ながら、少しずつ動き始めている。

９－３について
・全国事務局長会議、県連盟代表者会議等の機会に意見交換を行っている。

９－４について
・創立１００周年記念事業特別委員会の下に特別募金小委員会を設置した。次年度から本格稼働となる。今後、財務委員会、社会連携・広報委員会と連携して、基金設立を目指す

10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○	○		事務局 他

１０－１～２について
・研究の一環として、官民が創設した「自然体験活動指導者認定制度」における自然体験活動指導者（NEAL リーダー、インストラクター、コーディネーター）の養成講座を、一般を対象に開設できるように、引き続き、指導者養成団体として登録している。ボーイスカウト独自の野外活動指導資格については、今後の検討課題としている。

１０－２について
・ボーイスカウトの研修形式を活用した企業研修などの提供は、本年度も十分に実施できなかった。高萩スカウトフィールドのプログラム開発などが進んだことから、次年度以降、これらを活用した取り組みなどを行っていく。

11. 公益事業の取り組み

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○			ｺﾐｯｼｮﾅｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 社・広 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○	○			

１１－１について
・加盟員外への表彰を含めた維持会員年功章を昨年度から開始している。また、創立１００周年記念事業特別委員会と名誉会議が連携して、２０２０年の１００周年当別表彰を検討する体制を整えた。

１１－２について
・ＰＲ計画について「なろう。一人前に。」のキャッチフレーズを当年度も継続使用して各種キャンペーンを展開。「人の役に立つ」ことがボーイスカウトのアイデンティティであることを内外に発信した。

１１－３について
・ローバースカウト年代を中心とした、地域社会や国際問題について取り組む機会を創出し、議論や実践の場が必要であることを鑑みて、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）について検討を開始した。

12. 野外活動施設の確保

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実（野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり）	「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。		○	○	○	○			プログラム タスクチーム 社・広 事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実（ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする）	高萩フィールドなどモデル野営地をつくる。		○	○	○				
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大	（平成30年度以降の取り組み） 日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供	野外活動を重視した集会パッケージの開発		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング（次世代のスタッフトレーニング）を検討	FHAのスタッフや高萩フィールドでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。	○	○	○	○	○	○	○	

１２－１について
・活動的で冒険的な野外活動の拠点として、高萩スカウトフィールドの施設の充実を図るため、タスクチームを編成して、プログラム開発等を行った。野外活動施設のガイドラインについて、スカウトキャンプの基準となる「野営規準」とともに検討した。次年度も引き続きの検討課題とした。

１２－２について
・高萩スカウトフィールド活用タスクチームにより、各種行事の実践を通じて、プログラムパッケージを開発した。今後、これを各県連盟に発信しながら、全国の野営場でも同様の展開ができるようなモデル化を図っていく。

１２－３について
・１２－２、１２－４の開発、検討に基づきながら、今後の認証制度などの検討を行っていく。

１２－４について
・高萩スカウトフィールドをモデル野営施設となるように、常設プログラムを開発し提供を行い、かつ、稼働率を高められるように高萩スカウトフィールド活用タスクチーム（チーム長：中島清行プログラム副委員長）を設置し、5回の会議を開催し、活用促進するための常設プログラム、場内の名称、キャッチコピーなど活用促進を図るための提案書(答申)を3月理事会に提出した。

１２－５について
・高萩スカウトフィールドにて次の８事業（委託事業）を実施し、施設の活用促進ならびに青少年の体験活動の充実を図った。(一般事業 日-34と関連)
①9月13日（金）高萩高等学校野外活動体験授業（高校からの委託事業)1年生66人
②10月30日（水）　しぜんとあそぼデイキャンプ(緑の募金助成事業)松岡小学校4年生66人
③10月31日（木）　しぜんとあそぼデイキャンプ(緑の募金助成事業)　東小学校4年生26人
④11月1日（金）　しぜんとあそぼデイキャンプ(緑の募金助成事業)　東小学校6年生29人
⑤11月2日（土）～3日（日）　第１回親子キャンプ(高萩市委託事業)　11組の親子31人参加
⑥11月3日（日）～4日（月）　第２回親子キャンプ(高萩市委託事業)　10組の親子27人参加

１２－６について
・高萩スカウトフィールドに実施した富士特別野営については、１１人のローバーの奉仕があり、次世代スタッフの育成に繋がった。今後、継続性をもって、育成を心掛けていく必要がある。また、一般の青少年への指導を通して、野外活動に関する知識と技能、指導力の向上や、自然環境保護への関心を高める機会として、ローバースカウトを公募し、次の事業にトレーニングを含め奉仕した。
①10月30日　しぜんとあそぼデイキャンプ（高萩スカウトフィールド）
②10月31日　しぜんとあそぼデイキャンプ（高萩スカウトフィールド）
③11月2日～3日　第１回親子キャンプ（高萩スカウトフィールド）
④11月3日～4日　第２回親子キャンプ（高萩スカウトフィールド）
・次の事業にもローバースカウトを公募し、トレーニングを含め奉仕した。
①5月18日　春のキッズフェスタ（国立オリンピック記念青少年総合センター）
②10月26日　秋のキッズフェスタ（国立オリンピック記念青少年総合センター）
③12月5日～7日　エコプロ２０１９（東京ビッグサイト）

Ⅳ．広報戦略で今年度取り組んだ施策

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	主担当
Ⅳ-1	新広報戦略「10本の矢」の継続普及	改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す	○	○	○	○	○	○	○	社・広 団支援・組織拡充
Ⅳ-2	新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。	「社会連携・広報キャラバン」を全国展開し、「新広報戦略10本の矢」に組織を挙げて取り組むよう、さらに戦略の普及に取り組んでいく ① イメージを統一して徹底的に発信 （例：コカ・コーラBS自販機は全国50台の設置を目標に） ② きっかけになるPR動画を拡散 ③ PRムービーコンテストの実施 ④ 関心持った人たちをリクルートサイトに呼び込む ⑤ 団情報のHP発信支援 ⑥ 多くの人にスカウティングを体験してもらう機会提供 ⑦ 入隊したビーバー・カブのお母さんの声を聞く ⑧ ローバーを社会に売り込む ⑨ かつての仲間を呼び戻す ⑩ 「PRドリームチーム」参加促進		○	○	○	○	○	○	

ＩＶ－１・ＩＶ－２について

２０１７・２０１８（平成２８・２９）年度に立ち上げた「新広報戦略１０本の矢」による具体的な各種ＰＲ事業を継続して全面的に展開。２０１９（令和元）年度からは委員会のもとに社会連携・広報フォーラム小委員会を設置し、全 47 都道府県連盟での開催を目指して県連盟のニーズによるセッションテーマに応じたペアを都度編成し、各連盟を訪問。地域社会との連携の重要性、広報の効果的な方法、ＷＥＢサイトの活用や具体的な写真撮影テクニック、助成金獲得のヒントなどの情報を提供しつつ、多様な参加者からも様々な取り組みの話を伺うなど、ワークショップも交えたフォーラムでの交流により広報、社会連携のへの取り組みの活性化の契機となるよう取り組んだ。５月全国大会（鹿児島）でのデモンストレーション実施からスタートしたのち、各県連盟の開催希望に応じて開催を調整し、４７都道府県連盟中２６の県連盟での開催を予定した。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から様々な会議集会等の開催自粛呼びかけもあり、残念ながら３月中旬に予定されていた２県での開催を中止した。これにより、２４県連盟での実施のべ 889 人の参加となった。

「１０本の矢」関連諸発信成果等：

＜ＰＲ動画＞

「一人前かるた」「保護者インタビュー」「なろう。一人前に。夏休み編」
「ボーイスカウトが伝えたいこと」「隊長インタビュー」「ボーイスカウト物語」

＜総計＞　　９５１，４２３回　以上再生

PR 動画	Youtube, Facebook, Instagram 再生回数計
一人前かるた	152, 904
保護者インタビュー	56, 186
なろう一人前夏休み編	570, 175
伝えたいこと	57, 933
隊長インタビュー	34, 263
ボーイスカウト物語	79, 962
合計	951, 423

※一部旧集計より数値が下がっている例あり、システム上一部履歴損失の可能性。総数はこれを上回ると想定される。上記のＰＲ主要動画６本についてはプロへの委託の中で展開したものだが、ほかにもスタッフ、ボランティアによる著名人のインタビュー動画等を含むＰＲ動画多数を発信してきた。

＜日本連盟ＷＥＢサイト＞

２０１９年２月にはメンバー向けサイトを全面改訂。スマホ対応の見やすいページ構成と、検索機能強化での情報の探しやすさを強化。また従前一部のスタッフしか扱えなかったサイト全体を事務局の全職員、役割を持った委員会委員等ボランティアスタッフによる情報発信・更新ができるよう改め、情報発信力も強化した。これらを通じたＷＥＢサイト改善により、新規来訪者が６７．３％に。より多くの人々が日本連盟のＷＥＢサイトを訪問するようになった。

●２０１９年２月から２０２０年１月までの１年間のデータ
来訪者数　３８８，９２７人（前年度比３９．５％増）
ページビュー数　２，６２９，６８０（前年度比５５．９％増）

なお、２０１８年１２月以降、写真や紹介文、団ホームページや各種 SNS へのリンク等の追加情報が掲載できるようになったが、こうした追加情報の投稿機能を活用した団は、掲載**１，９１４団**中**６１１団**（２０２０年３月上旬現在）で、残念ながら活用率は**３１．８％**に留まっており、今後も各団への情報発信の働きかけを継続することが課題である。なお、「各団への入会等問合せ状況」および「各団情報の変更依頼状況」を県連盟や地区、団など誰でもデータを見ることができる集計サイトも公開。組織拡充、広報担当者らへの活用も呼びかけている。

＜主要メディア（新聞・ラジオ・テレビ・雑誌）とＷＥＢメディアへの掲載例など＞
２０１９年春からのメディア掲載は日本連盟で掌握できたものだけで２２２件（３月９日現在)。前年度は日本ジャンボリー行敬関係報道が多く見られ年度末で３０５件となっていたが、２０１７年度末は２２４件であった。

このほか、社会連携・広報委員会の当期２年間の任期中の取り組み全体をまとめた「ＰＲ計画報告書」を作成した。

Ⅴ．加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30					
Ⅴ-1	各年度事業計画の重点施策としての加盟員拡大への取り組み	長中期計画に含まれている課題に加えて、団支援・組織拡充委員会による加盟員拡大の取り組み	○	○	○	○	○	○	○	団支援・組織拡充 社会連携・広報 中途退団抑止特別
Ⅴ-2	都道府県連盟による100周年を目指した加盟登録人数目標設定	都道府県連盟よる加盟登録人口見込みを毎年度分析し、必要な支援を行う		○	○	○	○	○	○	
Ⅴ-3	各団の加盟登録人数に基づく団新団	都道府県連盟へ毎年度団診断のデータを提供し、団支援の具体的な対応を進める。		○	○	○	○	○	○	
Ⅴ-4	中途退団抑止への取り組み	2017（平成29）年度のタスクチームによる検討を踏まえ、今年度からの特別委員会として具体的な取り組みを進める			○	○	○	○	○	
Ⅴ-5	長中期計画との相乗効果	2016（平成28）年度から取り組んでいる長中期計画の相乗効果を狙った具体的な中途退団抑止策に取り組む			○	○	○	○	○	
Ⅴ-6	2019年度スカウト初年度登録促進キャンペーンを実施する	スカウトの新規入団を促進する				○				

Ⅴ－１について
・前年度に引き続き、今年度の重点施策として取り組んだ。団支援・組織拡充委員会では、モデル県連盟を設定して、取り組みを進めている。

Ⅴ－２について
・２０１７年度に実施した都道府県連盟の１００周年を目指した加盟登録人数目標に対し、都道府県連盟の達成状況を分析している。今後は目標調査を定期的に実施する。

Ⅴ－３について
・前年度に引き続き、各団の加盟登録人数に基づく団診断の結果を都道府県連盟へ提供し、団支援の対応を進めている。

Ⅴ－４について
・中途退団抑止特別委員会により、各種取り組みに着手した。
①委員会による検討　５回
②「次世代につなげるスカウト運動セミナー」１０会場での実施（フォローアップミーティング１回含む）
③全団調査・団審査調査
④保護者へのスカウト運動の理解促進検討　親業セミナー等
⑤楽しい集会を全国の指導者間で共有できるシステム構築　内容と準備まで実施。

Ⅴ－５について
・長中期計画の各行動計画、広報戦略、加盟員拡大策、中途退団抑止策が具体的な動きとなったことから、相乗効果が表れるように連携した取り組みを進める。

Ⅵ. 日本連盟１００周年財政ビジョンで今年度取り組んだ施策

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
Ⅵ-1	政策課題への取り組み	1. 中途退団抑止策への財政面施策 2. 共済事業への財政面施策 3. 特定資産取崩分積立施策			○	○	○	○	○	理事会 財務 事務局
Ⅵ-2	自助努力による経済効果策	次の自助努力により収入増と支出減を図り、その財源を中途退団抑止に役立てる。 【収入増の取り組み】 1. 国債の不動産化と本郷会館の賃貸化【実施中】 2. 集会等参加者負担金の値上(単年度処理案件のみ) 3. 施設利用料の増収 4. 企業からの協賛金 【支出減の取り組み】 1. 事務局人件費削減化【実施中】 (25人体制･登録業務ｱｳﾄｿｰｼﾝｸﾞ化)【実施中】			○	○	○	○	○	
Ⅵ-3	加盟登録料の改定	財政健全化のために加盟登録料の改定は避けて通れないため、次の対応を進める。 1. 平成３１年度からの加盟登録料改定を進める【済】 2. その2年後から総収入の変化に対応した「総収入リンク型」への移行も視野に入れる				○		○		
Ⅵ-4	今後の日本連盟の財政のあり方の検討	財政ビジョンの取り組みと同時に、今後の日本連盟の財政のあり方を具体的に示す。			○	○	○	○	○	

今年度の重点施策として、加盟員拡大と中途退団抑止に取り組み、長中期計画、広報戦略、財政ビジョンによる相乗効果を考慮した具体策を進めた。

日本連盟１００周年財政ビジョンを進めることを含み、理事会で承認された「財政再建及び組織改革に関する基本方針」の実施状況をＰ２からＰ３に示す。

Ⅶ. 一般事業の取り組み

１．主として日本連盟に関する事業（日－１～３６）

		＊重点施策・重点事業に含まれるものを除く	所管組織			
主として日本連盟事業	1	富士スカウトを顕彰する。（代表表敬）（プ）	◎	○	○	○
	2	全国ローバースカウト会議（RCJ）を通じてローバースカウト活動の活性化を図る。（プ）	◎	○	○	○
	3	「青少年の意思決定への参画」をより推進するため、全国スカウトフォーラム採択事項のフォローを行う。（プ）	◎	○	○	○
	4	全国ローバースカウト会議の活動を活性化し、全国事業を開催する。（プ・日コミ）	○			
	5	英国エディンバラ国際アワードの参加促進を行う。（プ）	◎			○
	6	第62回JOTA、第23回JOTIへの参加を推進する。（プ）	○	○		○
	7	安全促進フォーラムを開催する。（SfH・安）	○	◎		
	8	海外派遣事業を実施する。（国）	◎	○	○	○
	9	海外スカウト受入事業を推進する。（国）	◎	○	○	○
	10	国際活動サービスチームの活動を推進する。（外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等）（国）	○			
	11	日本連盟トレーニングチームの充実を図る。（指）	○			
	12	全国大会を開催し、指導者としての研鑽を積む。（鹿児島県鹿児島市）	◎	○	○	○
	13	組織拡充モデル県連盟を数県連指定して日本連盟と一体となって組織拡充を推進する。（団・組）	◎	○	○	○
	14	全国組織拡充担当委員長会合を開催する。（団・組）	◎	○		
	15	組織拡充顕彰を実施する。（団・組）	○			
	16	中途退団数の実人数を把握する。（事）	○			
	17	全国BS写真コンテスト・ムービーコンテストを実施する。（社・広）	◎			○
	18	新刊書籍・資料の検討を行い発行する。（プ、指、社・広）	○			
	19	WOSM・外国連盟資料を翻訳し出版する。（プ、指、社・広）	○			
	20	絶版書籍の再版を検討し実施する。（プ、指、社・広）	◎			○
	21	各種ハンドブックの内容改訂を行う。（関連委員会）	○			
	22	スカウト歌集の編纂を行う。（ソ）	○			
	23	スカウトソング研修会・ワークショップを開催する。（ソ）	◎			
	24	維持会員入会促進活動等を推進する。（事）	○			
	25	マンスリー維持会員への移行を促進する。（事）	○			
	26	遺贈システムのPRと促進を図る。（事）	○			
	27	世界スカウト財団・APR財団への支援を行う。（事）	○			
	28	スカウトライオンズ／スカウトロータリアン入会促進活動等を推進する（事）	○			
	29	ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラムを促進する。（社・広、財）	◎	○	○	○
	30	書き損じはがき等回収による「もったいない寄附」を促進する。（社・広、財）	◎	○	○	○
	31	23WSJで構築した募金ネットワークを継承し、100周年に向けて拡大する活用する。（社・広、財）	◎			
	32	行政・民間からの委託・助成事業を獲得する。（事）	○			
	33	東京オリンピック・パラリンピック支援への準備に取り組む。（事）	○			
	34	野営場整備を各県連盟等の自主的協力を促進し、プログラムとして活用することを推進する。（PT、プ）	◎	○	○	○
	35	防災・危機管理に関する提言を具現化する。（防危）	◎	○		
	36	「共済事業」の運用を行う。（共済委員会）	◎	○	○	◎

日－１：富士スカウトの顕彰（代表表敬）は、５月新天皇陛下即位に伴い、秋篠宮皇嗣殿下との御接見（３月２３日）、安倍総理大臣、萩生田文部科学大臣への表敬訪問（４月３日）を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期することとした。
また、２０２２年に迎える日本連盟創立１００周年に向け、今年度、新たに環境大臣表敬訪問の機会をいただき、小泉環境大臣に、ボーイスカウトとしての環境の取り組みやスカウトの実施するプロジェクトについての報告を行ったほか、国内外の環境問題やそれに対する取り組みなどの意見交換をし、スカウト自身が環境に対して率先して行動していく決意を表明した。
〈環境大臣表敬〉
日　時：２０２０（令和２）年２月１８日（火）11:00～11:50（環境省）
参加者：代表スカウト６県連盟６人
・今年度の事業対象者は２０１９年１月１日～１２月３１日までに富士スカウト章を受章した１４５人。昨年度は１７０人で、２５人（１５％）減少した。

日－２：全国ローバースカウト会議（ＲＣＪ）を通じてローバースカウト活動の活性化を図ることについては、次

の活動を展開した。

・全国大会において、３９県連盟の代表が集まり年次総会を開催した。また、テーマ別集会にて、ローバー対象セミナーと世界のローバー活動紹介を行った他、期間中を通じてエキスポ会場にて全国の活動紹介を行った。
・１０月に「ＲＣＪフォーラム２０１９」を開催するために準備を推進した（台風１９号の影響により中止）。
・海外派遣については、日－８に記載。
・各ブロックにおいてオンラインを中心とした会議と対面会議を実施して、ブロックイベントを計画した（２ブロックで実施、４ブロックはコロナウイルス感染拡大防止により中止）。

日－３：ＲＣＪフォーラム２０１９については、１０月に開催するよう準備を推進したが台風１９号の影響により中止となった。改めて２０２０年度に開催するよう運営委員の募集を始めた。

日－４：ＲＣＪによる全国事業については、「Ⅲ．重点事業への取り組み、３．各種行事の開催（２）（Ｐ．６）」のとおり。

日－５：英国エディンバラ公国際アワード（プログラム）は、２０１８（平成３０）年度より、日本事務局の閉鎖に伴い、すでに参加している人への対応など限定的に活動を実施した。２０１９（練和元）年度は新たに４人（ゴールド１人、シルバー３人）のスカウトが修了し、２０１３（平成２５）年度の開始以来、通算して１１人の修了者となった。また、新たな契約のもと活動が再開できるようにアワード事務局と契約更新を調整している。

日－６：２０１９年度ＪＯＴＡ－ＪＯＴＩは、次のとおり実施された。

・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として、世界中のスカウトが、アマチュア無線交信やインターネット通信での情報交換により、お互いを理解し知識と友情を深めた。
・開催日時：１０月１８日（金）００：００～２０日（日）２４：００　７２時間
・今年度は、日本連盟ホームページに特設ページを設けて、事前申請と事後報告をお願いしたところ次のとおり申請・報告があった。
　　事前申請：２１県連盟９０グループ
　　参加報告：２４県連盟６９グループ
・日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ協力のもと、埼玉県立小川げんきプラザにて無線運用を行い、福島・埼玉・神奈川・東京から２３人の参加・訪問があった。また、クラブが設けた「ＪＯＴＡ／ＪＯＴＩ」掲示板には約５０件の書き込みがあった。
・ＪＯＴＩでは、ＲＣＪ運営委員会が主体となって、「ＪＯＴＡ－ＪＯＴＩ２０１９」と題したプログラムが行われ、重複参加も含めて、オンライン上で約 100 人のローバー年代のスカウトや指導者が参加した。
・国内の運用・参加について、ＪＯＴＡ参加が１８件、ＪＯＴＩ参加が２９件、両方への参加が２２件、参加スカウト６７８人、参加指導者・支援者４２３人、見学者１２１人であった（前年度は５４件、延べ１，２０１人）。
・昨年度から運用件数は減少したが、地区や団でＪＯＴＩを中心に大々的に実施するところが増え、参加者・見学者ともに増加した。

日－７：安全促進（基幹）フォーラムは、ボーイスカウト活動における安全の促進により、事故発生件数の低減化を図ること、日本連盟が構築した「安全確保と補償のシステムループ」の理解を広めること、蓄積された事故実績データの有効活用を図ることを目的に開催している。更に２０１９年度からは、基幹フォーラムに参加した指導者による「安全普及フォーラム」を開催している。

<u>２０１９年度安全促進（基幹）フォーラム：</u>

６会場で開催、２２１人が参加

① 滋賀会場　４月１４日（日）滋賀　草津市立町づくりセンター　参加者５８人
② 東京会場　６月　２日（日）東京　ボーイスカウト会館　参加者３１人
③ 愛知会場　６月２９日（日）愛知　あま市甚目寺公民館　参加者２９人
④ 神奈川会場１１月４日（月）神奈川　神奈川スカウト会館　参加者３８人
⑤ 広島会場　１１月１７日（日）広島　アステールプラザ　参加者３６人
⑥ 鳥取会場　２月　１日（土）鳥取　県立倉吉体育文化会館　参加者３０人

２００９年（平成２１）年度から始まったこのフォーラムは、２０１９（平成３１）年度末までに、４９回（参加４３県連盟）で開催され、延べ２，１４３人が参加している

<u>２０１９年度安全普及フォーラム：</u>

８会場（５県連盟）で開催、１６６人が参加

① 福島会場　５月１９日（日）杉妻学習センター　参加者１３人
② 栃木会場　６月　１日（土）県立美術館普及分館　参加者３３人
③ 東京会場　７月　７日（土）小平市福祉会館　参加者１０人
④ 千葉会場　７月１４日（日）千葉県スポーツセンター　参加者２８人
⑤ 東京会場　７月１５日（月）日野市市民の森ふれあいホール　参加者１７人
⑥ 東京会場　９月２９日（日）練馬区立開進第二中学校セミナーハウス　参加者１５人

⑦ 静岡会場１０月１９日（土）静岡県青少年会館　　参加者２２人
⑧ 東京会場１１月３０日（土）杉並区井草地域区民センター　参加者２８人

日－８：海外派遣事業については、本年度は第２４回世界スカウトジャンボリーを除き、次の３派遣を実施した。派遣先はアイスランド、イギリス、オーストラリア、スイス、スウェーデン、デンマーク、フィンランドの７の国と地域で、合計９人を派遣した。

① カンダ―シュテーク夏季野営スタッフ派遣
６月７日～９月９日　スイス・カンダ―シュテーク国際スカウトセンターター　１人

② スカウト特別海外派遣（霞会館補助事業）
８月１３日～９月５日　イギリス　１人
９月１５日～１０月７日　スウェーデン、デンマーク、アイスランド、フィンランド　１人

③ 第１３回アジア太平洋地域（第２１回オーストラリア）ローバームート派遣
１２月２９日～１月１２日　オーストラリア・キャンベラ　キャンプ・コタ―マス　６人
＊オーストラリア東海岸で発生した山火事により、大会が途中で中止となり、日本派遣団は主催国の手配によりオーストラリア国内に滞在をした。

また、本年度に県連盟・地区・団等による「海外派遣」として承認された計画は、１２県連盟、１９事業、参加者２１０人であった。
他、申請があった派遣事業の内、５事業が新型コロナウイルスの影響により中止となった。

日－９：海外スカウト受入事業については、次の２事業を行い、２カ国より４２人を受け入れた。

① オーストラリア短期交換留学スカウト受入
１１月２５日～１月１１日　オーストラリアから３人を兵庫連盟で受入、１人を滋賀連盟で受入
（＊兵庫で受け入れた３人の内１人は１１月３０日からの受け入れ）

② ２０１９（令和１）年度日韓スカウト交歓計画
１月１１日～１月１９日　韓国から４０人を大阪連盟他近畿ブロック内で受入

県連盟・地区・団等の計画による「海外スカウト受入計画」として承認された計画は、３県連盟、４事業、訪日参加者２カ国連盟より合計９２人であった。
他、申請があった受け入れ計画の内、１事業が新型コロナウイルスの影響により中止となった。

日－10：国際活動サービスチーム（ＳＴＩＡ）の活動は、外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等を中心に行っている。このチームの活動は、将来国際社会で活躍できる人材の育成と発掘に役立っている。
２０１９（令和１）年度は新規に５人が登録し、前年度からの継続登録者４２人と合わせて４７人の登録があった。

日－11：トレーナー制度の見直しに関する取り組みとして、トレーナー報告書について定量的に評価できるようトレーナー報告書の書式を改訂した。また、トレーナー研究集会とトレーナー訓練については、次のとおり実施した。

<u>トレーナー研究集会</u>
今年度は令和２年２月２日から２３日まで全国１１会場で開催し、今年度の日本連盟の指導者養成に関する取り組みと令和２年度の予定を報告し、共通研究テーマを「ボーイスカウト講習会のセッション展開方法について」と「スキルトレーニングについて」に設定し、研究のポイントを示して各地で研究を行った。
全国のトレーナーに新指導者訓練を浸透させ、隊指導者・団指導者への支援の方法について深く考察する機会となっている。

<u>リーダートレーナーコース</u>
本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に訓練の企画および実施をするための技能を修得することを目的として開設した。
（６月１９日～６月２３日　於･高萩スカウトフィールド　１０県連盟１４人の履修）

<u>副リーダートレーナーコース</u>
本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に導入訓練課程および基礎訓練課程を行う技能を修得することを目的として開設した。
（６月５日～６月９日　於･那須野営場　１９県連盟３５人の履修）

<u>新任副リーダートレーナー研修会</u>
新型コロナウイルス感染への対応として、開催を延期した。

日－12：５月に鹿児島市で開催した全国大会については、重点事業に記載（Ｐ．６参照）

日－13：組織拡充モデル県連盟については、２０１６（平成２８）年度から高知県連盟を、２０１７（平成２９）年度からは秋田県連盟を、２０１８（平成３０）年度からは岡山連盟・大分県連盟を加え、組織拡充を推進している。

・秋田は４回訪問、昨年度発信した県連盟からの「要望に対する回答と提言」の進捗状況確認、県連盟役員及び団委員長との意見交換会、県連盟総会での村田委員長の講演、秋田県連盟版「母親世代タスクチーム」会議の開催、ボーイスカウト講習会開設、防災キャラバンでの募集活動支援を行った。また、秋田県連盟

版「母親世代タスクチーム」会議後に委員会としての提言を取りまとめ発信した。
・岡山は８回訪問、防災キャラバンキックオフイベント告知のためのメディアまわり（テレビ・ラジオ他）、サポート内容見直しのための打合せ、県連盟新ビジョン委員会参席し（日本連盟のサポート・提案等、県連盟「改革案」他対応）、２月２日の県連盟７０周年団代表者連絡会では澤副委員長が記念講演を行った。
・高知は３回訪問、高知第８団への支援に特化し、昨年度の体験イベント（２０１９年３月２４日開催）後の体験プログラム【その２】）を開催（２９人の小学生参加、併設のボーイスカウト説明会には１７人の保護者が参加）、育成総会で村田委員長より「スカウト運動へのさらなる理解」についての話、今後の支援の打合せ、団内研修「隊運営とプログラム」（参加指導者１３人）を開催した。また、昨年度と同様に３月に保護者対象のボーイスカウト説明会、一般小学生対象の体験イベントを計画（事前参加申込７０人）したが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、次年度以降に延期することとした。
・大分は県連盟事業の関係で訪問することはできなかったが、未組織地域での新団発団に向け各種調整を行った。具体的な支援等については、次年度の対応となる。

日－14：組織拡充担当者による会合は、次のとおり実施した。
・１１月９日、１０日の２日間通い型で、東京・ボーイスカウト会館にて「加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと」をテーマに、全国組織拡充担当委員長会合を開催した。
・参加者２５県連盟３０人、スタッフ１１人（団支援・組織拡充員会委員７人、事務局２人）の他に、福嶋日本連盟コミッショナー、大久保指導者養成委員長、佐藤中途退団抑止特別委員会副委員長の参加を得た。
・内容：①団支援・組織拡充委員会から会合主旨、事業についての説明、②福嶋日本連盟コミッショナーからの話、③全体討議「スカウトはなぜ退団するのか？」、④グループ討議「団委員会が取り組む、スカウト活動継続の実態把握」・「地域におけるスカウト運動の普及」
・毎年度恒例の会合として定期的に開催していることから、全県連盟からの参加への啓発を続けたい。
また、今後も委員長会合は県連盟を、全国大会でのテーマ集会は団・隊と、対象のすみ分けして開催していく。

日－15：組織拡充顕彰については、次のとおり実施した。
・２０１９年度全国大会表彰式において、２０１８（平成３０）年度の顕彰を実施した。
【県連盟対象】①加盟員数の増加＝５県連盟、②ＢＶＳ隊設置＝４県連盟、③継続登録　者率＝該当なし、④団数の増加＝該当なし
【団対象】Ｓランク＝１０県連盟１４こ団、Ａランク＝２４県連盟８０こ団
・２０１９年度については、１１月２９日付で全県連盟宛に文書発信し、「２０２０（令和２）年度全国大会」表彰式において顕彰する。

日－16：中途退団数の実人数を把握することについては、毎月末に登録状況を集計し、都道府県連盟に配信、諸会議に配布することで連盟全体での把握を進めた。また、登録システムより「退団理由」を抽出し、分析を進めている。

日－17：全国ＢＳ写真コンテスト
例年同様１１月～２月末まで募集し、少年の部１８６点、青年・成人の部２０８点、計３９４点の応募があった。それぞれの部門で最優秀１点、優秀２点、入選７点を、日本写真家協会元会長の田沼武能審査員長に選考いただき表彰した。また各部門の最優秀者にはキヤノンより提供いただいた賞品（デジタルカメラ）を贈呈した。また２０１７（平成２９）年度より設けたＰＲムービーコンテストを今年度も実施した。応募７６作品から最優秀、優秀の２作品を選考し、パナソニックより提供いただいた賞品（ウェアラブルカメラ）を贈呈した。また今年度はエイワのマシュマロ、ゴーゴーカレー、ビクトリノックスからそれぞれの特色ある商品協賛を得て、その特色に関連した作品に対し各企業賞も贈呈された。

日－18：現在取り扱い中の書籍の販売状況について整理し、消費税増税とともに適切な収益を確保できるように価格改訂を行った。取り扱い品目を整理し、現状にそぐわない内容の書籍の廃刊や、ＷＯＳＭ資料等のＷｅｂでのデータ配信に切り替えることで内容を整理している。

日－19：ＷＯＳＭ・外国連盟資料の翻訳・出版については、The Essential Characteristics of Scouting（スカウティングの本質的特徴）の翻訳を行った。

日－20：上記、日-18 に関連して９０周年で発行した絶版書籍の在庫が多いことから、絶版書籍の再販について今後慎重に行い、有益で残す必要があるものはＷｅｂサイトでのデータ配信に切り替えることとした。

日－21：各種ハンドブックの内容改訂については、指導者養成委員会、プログラム委員会との連携により進めた。

日－22：スカウト歌集の編纂については、スカウトソング特別委員会にて過年度からの修正内容を確認の上、各歌集増刷時に修正を行った。

日－23：スカウトソング研修会については、県連盟の開催希望を募り栃木県で開催した。また、昨年から開催しているスカウトソング研修会の企画・運営をテーマとしたスカウトソングワークショップを引き続き開催するよう準備したが、参加希望者が少なく中止となった。次年度については、各地で開催されるスカウトソング研修会へ委員を積極的に派遣するとともに、ワークショップ修了者の活用を促していくこととした。ワークショップ自己研修報告書修了者は、１１県連盟１４人であった。

・２０１９（令和元）年度スカウトソング研修会
　　期　間：２０１９年１１月３日（日）～４日（月・祝）
　　場　所：栃木県　日本連盟那須野営場
　　参加者：１１県連盟２６人
・２０１９（令和元）年度スカウトソングワークショップ（中止）
　　期　間：２０２０年1月１１日（土）～１２日（日）
　　場　所：東京　築地本願寺
　　申込者：２県連盟２人

日－24：２０１９（令和元）年度の維持会費実績は次のとおりであった。

維持会員	**総計**	**3,950**	個人・法人
（内訳）	通常維持会員	3,711	個人・法人
	特別維持会員	74	個人
	法人維持会員	108	法人
	旧特別維持会員	57	個人・法人

維持会費入金額

当該年度実績額	56,377,100	円（予算額の 98.0%）	（対前年 95.3%）
当該年度予算額	57,500,000	円	
前年度実績額	59,176,000	円	

当該年度実績額内訳

県連盟取扱額	45,779,000	円（予算額の 123.7%）	（対前年 96.5%）
県連盟協力依頼額	37,000,000	円	
前年度実績額	47,449,000	円	
日本連盟取扱額	10,598,100	円（予算額の 51.7%）	（対前年 90.4%）
日本連盟予算額	20,500,000	円	
前年度実績額	11,727,000	円	

・２０１９年度の維持会費実績は、目標額にはあと一歩及ばなかったものの、各県連盟の多大なる協力を得て、56,377,100 円を達成することができた。（３月末日現在：対前年比では△2,799 千円）
・目標達成県連盟は３８県連盟であった。
・マンスリーサポート維持会員の推進については、月額 1,000 円（年額計 12,000 円）からのカード自動引き落としによるマンスリーサポート維持会員の制度の拡大に努め、日本連盟役員（理事・監事、評議員）のほか、ＬＴ／ＡＬＴにも協力を呼びかけている。
　３月上旬現在、マンスリーの申し込み状況は以下のとおり。
　　理事・監事：１３人　評議員：１１人　ＬＴ／ＡＬＴ：４７人　小計７１人
　　このほかもありマンスリー維持課員は合計１６１人となっている。　（前年度 144 人）

日－26：遺贈システムについては維持会員だより等でお知らせを掲載してきた。今後は、スカウトクラブ員へのお知らせ等組織を通じたＰＲなどにも力を入れていくが、関心を持ってくれた方が理解しやすく、進めやすい説明や仕組みの構築が急務である。

日－27：例年同様、それぞれの財団会員等のネットワークからのＰＲを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。２０１９年度世界スカウト財団には４人の新規入会があり、ＡＰＲスカウト財団には新規加入者はなかった。これにより世界スカウト財団Ｂ-Ｐフェローは２５０人、ＡＰＲスカウト財団会員は１８３人となった。

日－28：例年同様、それぞれの会員等のネットワークからのＰＲを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。２０１９年度スカウトロータリアンは新規入会なく５５人、スカウトライオンズは２人の新規入会があり５７人となった。５月の鹿児島での全国大会時にそれぞれの年次総会を開催した。

日－29：ともに進もう助成プログラムは、２０１９年度に１７県連盟、７５人（うち新規２９人）の助成を行った。助成申請者は年々増えており、助成の原資となる寄付は伸び悩んでいるおり、次年度には助成のあり方を基本から再検討する必要がある。

日－30：前項の原資を集める「もったいない寄付」は、２０１９年度に前年度より多めの書き損じはがき等を集めたが、コロナウイルス感染防止対策により予定の整理ボランティアデーを開催できず、現金化に至っていない。前年度も寄付額としては不十分であったため当年度にさらに呼びかけを強化するとともに、ブックオフの協力を得てより多くの不用品等をより手軽に寄付につなげてもらうプログラムを立ち上げるなど試みた。前項同様制度自体の基本的な見直しを必要とする。

日－31：２０１９年度に募金に関する新たなチーム編成を行い、募金依頼を展開する計画だったが１００周年の募金委員会の立ち上がりとの関係もあって編成が遅れている。一部１８ＮＳＪを視野に入れた１３ＮＡへの

協賛など企業訪問、連携に着手しているが、具体的なチーム編成が急がれる。

日－32：２０１９（令和元）年度は次の補助金・助成金を得た。
・セブンイレブン記念財団「スカウトの日」協賛金　　５，５００，０００円
・緑の募金「市民参加による茨城高萩の森づくり人づくり」交付金　９１６，６８１円

日－33：東京オリンピック、パラリンピックについては、引き続きボーイスカウトの制服を着用しての奉仕が可能となるよう組織委員会等との交渉を進めており、これに関連した事業の参加者募集などに着手した。全県連盟の代表スカウトと東京近郊のスカウト合計１００余人の招集依頼を発信する直前に、大会延期が発表され、次年度に引き継ぐこととなった。

日－34：プログラム委員会の下、高萩スカウトフィールド活用タスクチームにより、７８種類のプログラムが提案され、今後具体化が検討される。

日－35：防災危機管理について、具体的な取り組みとして、①技能章「防災章」の新設、②スカウトによる救助操法の実演方法提示、③災害支援（対応）の各県連盟での検討整理を進めた。

日－36：「共済事業」の運用については、共済事業報告書が別途発行されるが、概要は次のとおりである。
・２０１４（平成２６）年４月より「ＰＴＡ・青少年教育団体共済法」を根拠法とする認可共済『そなえよつねに共済』を開始し６年目を迎えた。ボーイスカウト活動中の事故を補償する。共済掛金は本年度から改定され９００円となり、９月以降の加入も７００円に改定された。
・２０２０（令和２）年３月末現在、１０万人を割り込み、９８，６２６人（内、非加盟員を７，１３０人を含む）の申込を受付して運用した。例年同様、加入総人数の９２％が４月に加入している。前年度と比較すると、加盟員の減少傾向と相俟って、５，７８６人（約５．５％）の減員となった。
・非加盟員の加入者数は毎年増加傾向にある一方、加盟員を含めた全体の加入者数はここ数年間続く対前年度比５％前後の減少傾向に歯止めがかかっていない。
・事故状況については、今年度の事故報告における「事故発生状況受付簿」の受理件数は３１８件と昨年度の３０２件に比べて約５％増、支払額では、約２割増となっている。ただ、新型コロナの感染防止策として活動自粛を県連盟や団に対してお願いしたことにより、全国的に活動が行われなかったことが奏功し、今年３月以降に発生した事故は未だ１件も受け付けていない（4/10 現在）。春休みと重なる３月は例年 30 件前後の事故が生じており、今年度は当該分が削減されれば、最終的には昨年度と同水準の件数・支払額に落ち着くことが見込まれる。
・２０１９年度内に発生した事故は今後も一定数「事故発生状況受付簿」を受理することが見込まれ、最終的には昨年度同様４００件を切る見込みである。
・共済金の給付は「安全普及啓発活動」に対して次のとおり円滑に行われている。
①「安全促進フォーラム」の開催については、一般事業「日－７」（Ｐ．２０）参照。
② 安全分野に係わる各種資料制作：スカウティング誌掲載記事抜粋の「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会作成『野外活動のための安心・安全講座』を取りまとめし、ＨＰへ掲載。指導者への情報提供を通じて、活動中の事故低減を図った。
③ セーフ・フロム・ハーム推進フォーラムの開催（千葉）及び、スカウト自身が取り組める「思いやりを育む教育」として、昨年度に引き続き、教材の開発を行い、ボーイ、ベンチャースカウト向けの教材を配布し（Ｐ．９、２－３参照）ＨＰに掲載。
④ ２０１５（平成２７）年度に、ボーイスカウトの各都道府県連盟事務局及び那須野営場、高萩スカウトフィールド（山中野営場より移設）、日本連盟事務局にＡＥＤを各１台配備した経費は、５年間に亘り安全普及啓発活動費より支出しており、本年が５年目となり完了した。

２．団・地区・県連盟への働きかけ（働－１～１３）

		一般事業	日	県	地	団
団・地区・県連盟への働きかけ	1	スカウトの信仰を奨励する。（信仰奨励委員会・宗教関係者の会）	◎	◎	◎	◎
	2	スカウトの「日日の善行」を班・隊活動のほか日常生活の中でも促進する。（隊）				◎
	3	班・隊・団・地区・県連としての地域奉仕活動のほか、地域団体とも協力して行う。		○	○	○
	4	震災等の復興支援活動を展開する。（団、地区、県連、日連）	○	○	○	○
	5	「スカウトの日」には各種奉仕を中心とした活動を積極的に展開する。（プ・県連）	○	○	○	○
	6	BVS・CS部門からの上進率を高める施策を検討し（プ、県コミ）、隊、団がこれを活用する。	◎	○	○	◎
	7	団・隊はスカウト・保護者に対して、「スカウト活動に関するアンケート」を活用する。（団・組）	○	○	○	◎
	8	各種訓練機関（BS講習会、WB研修所、WB実修所、団委員実修所など）を実施する。（指）	◎	◎	○	
	9	各種訓練やインサービス・サポートを通じて指導者の資質の向上を図る（指・県コミ・地区）	◎	◎		
	10	特に若手指導者を表彰できるようにする。（日コミ・県コミ）	◎	◎		
	11	団・地区・県連盟に「組織拡充担当」を置き各組織にて会員拡充を推進する。（団・組）		◎	○	○
	12	組織間の訪問を推進する。　日連→県連、県連→地区、地区→団	◎	◎	◎	

働－１：信仰奨励委員会で、宗教章授与基準を設置していない教宗派でも取得できる仕組み等、信仰奨励、普及のための検討を行った。
- 各教宗派からの申請に基づき、４２年ぶりに宗教章の新設を行った。
  新設：天理教章
- 委員が分担してスカウティング誌に信仰奨励を図る記事を執筆、掲載した。
- ５月の全国大会時に「宗教関係者の会」年次総会（出席会員１０人）を行った。現在の会員数５３人（前年度末５０人）。
- 本年度は３６０人が宗教章を取得した（前年度取得者４２１人）。
- 各教宗派の代表者を推薦いただき、宗教関係代表者会議の開催準備を進めた。

働－２：公共のマナーの大切さについては、「日本連盟コミッショナー通達（夏季の諸活動・冬季の諸活動）」により、各県連盟・日本連盟ホームページを通じて周知している。

働－３：「私たちにできる社会貢献とは」のテーマのもと第２２回全国スカウトフォーラムを昨年１２月に開催し、フォーラム宣言「ベンチャースカウト主導のスカウト活動を実現させよう！」を実現するためにアフターフォーラムの開催や各団・地域でできる社会貢献活動の推進を奨励した。

働―４：復興支援活動に関連して、災害時の募金活動等が行われた。特に１０月の台風第１９号については全国にて募金活動が行われた。また、オーストラリアの森林火災の支援活動についても、オーストラリア連盟の支援活動を日本連盟ホームページに掲載し、支援バッジの購入と着用について呼びかけた。

働－５：「スカウトの日」は９月１６日（第３月曜日敬老の日）に一般財団法人セブン－イレブン記念財団の協賛、文部科学省・環境省・厚生労働省の後援をいただき、テーマ“地球大好き！ I Love the Earth.”のもと、「日日の善行」の一環として全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が、奉仕活動としてさまざまな社会貢献活動を展開した。地域住民の方と取組み、ボーイスカウト活動を広く周知するため、申し込みのあった団・隊には、「環境マークを集めよう」プログラムキットを配付した。
参加報告集計結果は、参加団４８６団、参加者１６，７１８人であった（前年度実績５５４団１７，９６５人）。事前には、４７都道府県から８００団を超える申し込みがあったが台風等の影響により活動が中止になったといえる。
この取り組みを広く一般に周知するため、日本最大級の環境展示会「エコプロ２０１９」にブース出展し発信した。環境保全・環境美化活動以外にも、地域の奉仕活動が展開されるよう検討している。

働－６：ＢＶＳ・ＣＳ部門からの上進率を高める施策について、県連盟コミッショナーによる「Ｃ、Ｄ団支援」を通じた取り組みにより展開を図られた。次年度は、特にＣＳ部門の支援、強化を促進させていく。

働－７：昨年度、①アンケートをリニューアルしホームページに掲載、②「母親世代タスクチーム報告書－母親の本音から探る新規加盟員獲得と中途退団防止の１４のポイント」を配信し、今年度は会合、講演等で周知、組織内での活用を促した。

働－８：新訓練体系に基づく各種訓練を全国各地で実施した。
※９月と１０月に発生した台風による影響と、２月以降の新型コロナウイルス感染への対応として、複数のコースが中止となった。

<u>ボーイスカウト講習会</u>
- 全国で１７９回開設し、ボーイスカウト運動の普及に努めた。

ウッドバッジ研修所「スカウトコース」（３４コース）

・参加者の研修効果が上がるよう効果的な支援を行い、セッションの運営に関しては、コースの開設地域に応じた工夫がなされ、参加者の理解を深める努力が行われた。

ウッドバッジ研修所「課程別研修」（のべ１１０回）

・青少年の年代別の特性や各部門の隊運営や進歩制度の特徴、プログラムの立案について学ぶ内容となっている。

・課程別研修を履修することで「隊指導者基礎訓練課程」の修了となり、上級訓練へとモチベーションを維持し、さらに自己研鑽に励むことが期待される。

ウッドバッジ実修所（８コース）

・活発なプログラムを展開するために、隊指導者に活動的なプログラム体験の機会を増やすことをねらいの一つとして、隊指導者上級訓練の内容を見直した。

・スカウトの進級課程の改定内容を踏まえて、ＢＳ・ＶＳ課程に一泊ハイキングのセッションを追加し、日程を４泊５日に変更して実施した。

団委員研修所（１５コース）

・団委員の実務を中心とした研修内容であることから、団の組織と運営の概要について理解し、団委員会、団会議の機能と連携や各隊活動への支援、団委員会の業務について理解する内容となっている。セッションの運営については、参加者の状況や地域差により所長の適切な対応が行われている。

団委員実修所（２コース）

・団の組織および団委員（長）の任務について深く理解し、団委員（長）として正常かつ発展的に団を運営していくための実務を理解し、自団の問題解決や将来に向かっての施策を推進する能力を高める内容となっている。

コミッショナー研修所（３コース）

・コミッショナーとして、隊・団の現状を把握し、支援を行うことの重要性の理解と、業務の流れ、コミッショナーに求められる知識、技能、態度などに関する理解を深めることにポイントを置いた研修内容となっている。セッションの展開方法については参加者の状況や、地域差により所長の指導に任せている。

ウッドクラフトコース（１コース）

・定型訓練として初めてのウッドクラフトコースを開設した。参加条件をウッドバッジ実修所修了者に拡大したことで、トレーナーに加えて多くの指導者が参加し、スカウトスキルを活用した各クラフトに取り組んだ。

働－９：全国の指導者の資質向上のため、隊・団への継続的な支援を行った。各県連盟において、インサービス・サポート（指導者の任務中の支援）の充実に努めることにより、指導者一人ひとりが自己研鑽によって知識・技能・心構えを高め、日常の活動の充実や団の発展に寄与できるよう、継続して支援を行う。インサービス・サポートを、コミッショナーと団委員長を中心に進めるよう、取り組み方について検討している。

働－10：ボーイスカウト振興国会議員連盟表彰で若手指導者を表彰できるようにしている。

働－11：「組織拡充担当」を団・地区・県連盟に置き組織拡充を推進することについては、団支援･組織拡充委員会で全国組織拡充担当委員長会合を１１月９日・１０日に開催し、更なる推進を依頼した。

働－12： 社会連携・広報委員会においてもＰＲ促進面の呼びかけのため、北海道、岩手、宮城、秋田、山形、埼玉、千葉、神奈川、新潟、富山、長野、岐阜、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、大阪、山口、香川、愛媛、鹿児島、沖縄の２４県連盟を訪問し、講演を行った。また、企業イベントへの協力等では、神奈川、東京、新潟、石川、愛知、大阪連盟、岡山の各連盟を訪問し各県連盟と連携して事業を推進した。

中途退団抑止特別委員会からは、セミナー開催を通じて各県連盟を訪問した。訪問県連盟は、岡山県連盟、鹿児島県連盟、千葉県連盟、群馬県連盟、沖縄県連盟、埼玉県連盟、愛知県連盟、香川県連盟、京都連盟となった。

団支援・組織拡充委員会からの県連盟訪問は、日－１３参照。

Ⅷ. 各種会議の開催

２０１９年度　評議員会・理事会の開催

第１回理事会：５月７日（火）日本連盟スカウト会館で開催
１．２０１８（平成３０）年度の事業報告について
２．２０１８（平成３０）年度の決算について
３．２０１９年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について
４．２０２１年度・２０２２年度全国大会開催地について
５．任期満了に伴う名誉会議議員の選任について
６．ＢＳエンタープライズ経営改革特別委員会の名称変更と任期について
７．第１８回日本スカウトジャンボリー企画委員会の設置について
８．第１３回日本アグーナリー予算案について
９．除名に関する定款および教育規程等について

定時評議員会：５月２４日（金）鹿児島サンロイヤルホテルで開催
１．平成３０年度の決算について

第２回理事会：１０月８日（火）日本連盟スカウト会館で開催
１．２０２０（令和２）年度事業計画策定日程について
２．２０２０（令和２）年度国の委託事業・公益団体等補助事業について
３．スカウト用品のインターネット販売開始と卸販売価格改定について
４．評議員の交代について
５．県連盟コミッショナーの交代について

評議員会（書面審議）：１１月１６日（土）
１．関東ブロック選出評議員の選任について

臨時理事会：１月１４日（火）日本連盟スカウト会館で開催
１．第２４回世界スカウトジャンボリー日本派遣団の決算について
２．諸規程の一部改正と制定について
３．除籍に関する定款・教育規程等一部改正について
４．２０２０年度臨時評議員会の議案について
５．スカウト用品の県連盟利益分配案について
６．災害に伴う登録料の支援を行うことについて
７．理事選定委員会の設置について

第３回理事会：３月１０日（火）日本連盟スカウト会館で開催
１．任期満了に伴う理事・監事の選任について
２．２０２０年度・２０２１年度の各種委員会等の委員の選任について
３．２０２０（令和２）年度事業計画について
４．２０２０（令和２）年度予算について
５．加盟登録料の減免について
６．２０１９年５月開催の定時議員会の議案について

臨時評議員会：３月１０日（火）日本連盟スカウト会館で開催
１．倫理規程の一部改正について
２．除籍に関する定款・教育規程等の一部改正について
３．任期満了に伴う理事・監事の選任について

運営会議の開催
構 成 員：奥島理事長、日枝副理事長、松平副理事長、水野副理事長、佐野常務理事、
　　膳師常務理事、山内常務理事、福島理事（日本連盟コミッショナー）
開 催 日：第１回　　４月２日（火）
　　第２回　　５月７日（火）
　　第３回　　６月４日（火）
　　第４回　　７月２日（火）
　　第５回　　９月３日（火）

第６回　　１０月１日（火）
第７回　　１１月５日（火）
第８回　　１２月３日（火）
第９回　　１月７日（火）
第 10 回　　２月４日（火）
第 11 回　　３月３日（火）
場　　所：日本連盟スカウト会館

県連盟代表者会議の開催

〔第１回〕
日　　時：５月２５日（土）１５：３０～１７：３０
場　　所：鹿児島サンロイヤルホテル
出 席 者：４６都道府県連盟理事長または代理者、日本連盟 奥島理事長、他理事６人
内　　容：１．２０１８（平成３０）年度事業報告および決算について
２．２０１９年度事業計画および予算について
３．財政再建及び組織改革に関する基本方針への取り組み状況について
４．２０１９年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について
５．１００周年記念事業について
６．第１４回日本アグーナリー開催地の公募について
７．今後の全国大会開催地について
８．団診断について

〔第２回〕
日　　時：１月２６日（土）１３：００～１６：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：４５都道府県連盟理事長または代理者
日本連盟 奥島理事長、他理事９人
内　　容：１．２０２０度事業計画（案）および予算（案）について
２．財政再建及び組織改革に関する基本方針の推進状況について
３．インターネット販売開始と卸販売価格改定に伴う都道府県連盟との契約ついて
４．１００周年記念事業および１８ＮＳＪの準備状況について
５．日本連盟コミッショナーからの連絡
６．全団調査について
７．２０１９年度スカウト初年度登録促進キャンペーン上期申請期間の延長について
８．２０１９年度スカウト初年度登録促進キャンペーンの成果について
９．２０２０年度全国大会および県連盟代表者会議について
10．第１３回日本アグーナリーの準備状況および参加申し込み期日について
11．第１４回日本アグーナリー会場候補地の提案について（再公募）
12．都道府県連盟へのｅメール・ファイル共有クラウド等サービスの提供について

全国県連盟コミッショナー会議の開催

〔第１回〕
日　　時：５月２５日（土）１５：３０～１７：３０
場　　所：鹿児島サンロイヤルホテル
出 席 者：県連盟コミッショナー４７人（代理７人含む）
福嶋日本連盟コミッショナー　他日本連盟役員１３人
主な内容：１．２０１９年度事業計画
２．日本連盟コミッショナー活動方針
３．日本連盟コミッショナー通達（指導者バディルールの制定）
４．ユニフォームの追加
５．日本連盟各常設委員会の取り組み
６．中途退団抑止特別委員会の取り組み

〔第２回〕
日　　時：１０月１８日（金）１５：００～２０日（日）１１：００
場　　所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
出 席 者：県連盟コミッショナー４６人（代理２人を含む）
福嶋日本連盟コミッショナー　他日本連盟役員９人

主な内容：１．日本連盟コミッショナー活動方針の推進
２．講演
３．各常設委員会報告
４．団診断Ｃ・Ｄへの支援中間報告
５．分科会
６．表彰について

〔第３回〕
日　　時：２０１９年1月１８日（土）１３：００～１９日（日）１５：００
場　　所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
出 席 者：県連盟コミッショナー４６人（代理３人を含む）
福嶋日本連盟コミッショナー他日本連盟役員６人
主な内容：１．新任県連盟コミッショナーのつどい
２．各常設委員会の取り組み
３．２０２０年度事業計画案
４．団審査の展開（グループ別討議）
５．ラウンドテーブルの活性化（グループ別討議）
６．コミッショナー制度の見直し（グループ別討議）
７．ローバースカウト年第への支援（グループ別討議）

全国事務局長会議の開催
日　　時：１１月１６日（土）１３：００～１７日（日）１１：００
場　　所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
出 席 者：４５都道府県連盟事務局長および代理者
日本連盟 佐野常務理事、膳師常務理事、福嶋日本連盟コミッショナー、木村事務局長他
内　　容：１．日本連盟報告
２．インターネット販売開始と卸販売価格改定について
３．中途退団抑止特別委員会「団審査状況調査」について
４．日本連盟コミッショナーの取り組みについて
５．事務局各部からの連絡
６．日本連盟への要望・質問について

スカウト教育推進会議の開催
〔第１回〕
日　　時：5月１２日（日）１３：００～１７：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他１３人
内　　容：１．２０１９年度事業計画について
２．プログラム委員会からの提案について
３．信仰奨励委員会からの提案について
４．ユニフォームの追加について
５．ＣＳ部門チャレンジ章に関する今後の企業協力について
６．各委員会からの報告事項について
７．全国スカウト教育会議について
８．第２４回世界スカウトジャンボリー派遣準備状況について
９．富士特別野営２０１９準備状況について

〔第２回〕
日　　時：9月８日（日）１３：００～１７：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他１８人
内　　容：１．今年度事業の取り組み状況と長中期計画を含む各施策の対応について
２．団支援・組織拡充委員会からの提案について
３．指導者養成委員会からの提案について
４．制服の追加に関する検討について
５．企業の協力による教育活動につて
６．各委員会からの報告事項について
７．第２４回世界スカウトジャンボリー日本派遣団について

８．富士特別野営２０１９について
９．ＷＯＳＭの動向について

〔第３回〕
日　　時：１１月２４日（日）１３：００～１７：００
場　　所：スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他１４人
内　　容：１．１００周年への各施策(長中期計画)の進捗と 2020 年度事業計画策定にむけて
２．教育規程改正について
３．企業の協力による教育活動について
４．各委員会からの提案事項について
５．日本連盟書籍について
６．各委員会からの報告事項について

〔第４回〕
日　　時：２０２０年2月１６日（日）１３：００～１７：；００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他１６人
内　　容：１．２０２０年度事業計画案について
２．各委員会からの提案事項について
３．各委員会からの報告事項について

日本連盟コミッショナー調整会議
〔第１回〕
日　　時：5月１１日（土）１３：００～１６：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他５人
内　　容：１．２０１９年度事業計画について
２．ユニフォームの追加について
３．全国県連盟コミッショナー会議（第１回）について
４．第１回スカウト教育推進会議の内容について
５．全国大会について

〔第２回〕
日　　時：9月７日（土）１３：００～１７：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他５人
内　　容：１．２０１９年度事業計画について
２．ユニフォームの追加について
３．全国県連盟コミッショナー会議（第２回）について
４．世界スカウト機構の動向について
５．スカウト教育推進会議の内容について

〔第３回〕
日　　時：１１月２３日（土）１３：００～１７：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他５人
内　　容：１．長中期計画への取り組みについて
２．ユニフォームの追加について
３．宗教関係代表者会議の設置について
４．日本連盟書籍について
５．全国県連盟コミッショナー会議（第３回）について
６．スカウト教育推進会議の内容について

〔第４回〕
日　　時：２０２０年2月１５日（土）１３：００～１７：００
場　　所：日本連盟スカウト会館
出 席 者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他５人
内　　容：１．長中期計画への取り組みについて

２．ＳＤＧｓおよびＭｏＰへの今後の取り組みについて
３．新型コロナウイルス対策について
４．来年度４月・５月の会議について
５．ＷＯＳＭ書籍の翻訳について
６．スカウト教育推進会議の内容について

Ⅸ．参考（規程等改正一覧）

１．感謝・表彰規程第４条（本連盟感謝）の改正
　　承認：２０１９年　９月　１日　名誉会議
　　施行：２０１９年　９月　１日

２．感謝・表彰規程細則第１条（日本連盟有功記章）の改正
　　承認：２０１９年　９月　１日　名誉会議
　　施行：２０１９年　９月　１日

３．教育規程施行細則９－４－１（正装の着用基準）の改正
　　承認：２０１９年１１月２４日　日本連盟コミッショナー
　　施行：２０２０年　４月　１日

４．教育規程施行細則７－６３－１（技能章課目）の改正
　　承認：２０２０年　２月１６日　日本連盟コミッショナー
　　施行：２０２０年　４月　１日

５．教育規程施行細則７－７－３（宗教章様式等）の改正
　　承認：２０２０年　２月１６日　日本連盟コミッショナー
　　施行：２０２０年　４月　１日

６．教育規程施行細則９－９－６、９－９－９（ＲＳ・指導者の記章）の改正
　　承認：２０２０年　２月１６日　日本連盟コミッショナー
　　施行：２０２０年　４月　１日

７．資金分配団体における利益相反防止規程の制定
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　４月　１日

８．コンプライアンス規程の資金分配団体となるのに必要な改正
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　１月１４日

９．事務決裁規程の改正
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　１月１４日

１０．共済事業苦情処理規程の改正
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　１月１４日

１１．「セーフ・フロム・ハーム」対応規程の制定
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　１月１４日

１２．倫理規程の改正
　　承認：２０２０年　３月１０日　評議員会
　　施行：２０２０年　３月１０日

１３．定款第１７条（資格喪失）・第１８条（除籍）の改正
　　承認：２０２０年　３月１０日　評議員会
　　施行：２０２０年　３月１０日

１４．教育規程２－７（脱退及び除籍）の改正
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　３月１０日

１５．会員に関する規程第６条（資格喪失）・第７条（除籍）の改正
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　３月１０日

１６．名誉会議規程第５条（会議）の改正
　　承認：２０２０年　１月１４日　理事会
　　施行：２０２０年　３月１０日

Ｘ．ボーイスカウト（ＢＳ）エンタープライズ事業報告

一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズ（以下ＢＳＥ）の事業年度である２０１９年２月１日から２０２０年１月３１日までの販売実績は339,166千円（税抜き）で、前年比で約76%と（前年度は444,203千円）、税引き前利益は、861千円となった。
また、本年はＢＳＥ事務局が日本連盟事務局に一体化した組織で一期を通した最初の期であり、システムの完全入れ替え、Online Shop のプレオープンなど新しい取り組みを行ったほか、秋田倉庫の閉鎖や商品の価格・在庫の適正化、消費税改正への対応なども行った。詳細は次のとおりである。

１．業務の基幹システムの変更

２０１９年５月に、長年使用してきた旧態依然とした基幹システム（AS400）から、既存品のPCAクラウドに移行を完了。共に会計ソフトもPCA公益法人会計からクラウド版に移行した。このことにより、インターネット環境があれば、どの端末からも容易に作業できるようになったほか、兼ねてからの懸案事項であったデータ抽出や保存期間なども改善した。また、スカウトショップ東京のポスレジに関しても、基幹システムと連動していたため、iPadで処理できるシステムへと変更。こちらも上記懸案事項が改善した。

２．在庫の適正化、効率化

２０１９年６月より秋田の倉庫を閉鎖し、在庫を群馬倉庫に集約して固定費の削減および出荷サイクルの効率化を図った。在庫適正化に関しては、新規の発注においては発注ロットを見直し、在庫リスクの軽減を行っているほか、現状の不動在庫等はスカウト用品史上初の大々的なセールを行った。また、2,000千円相当の販促品の頒布や寄附、旧記章や旧商品などの不良在庫の廃棄処理を行った。また、書籍に関しての販売契約を同年２月に更新し、適正化を行った。その他２５年間販売価格を据え置いていたものなどの価格を見直し、適正価格とした。

３．ネット販売

ネット販売のテストケースとして、２４ＷＳＪ派遣員向けのサイトを設けて１カ月間販売を行い、決済方法の動向や注文傾向などを集計。売り上げは6,985千円。この結果などを基に、既存システムの中で、利用している基幹システムに連動可能なものを選定し、２０１９年１１月に一部商品を販売するOnline Shopをプレオープン。在庫セールなども行い、３カ月間の販売金額は約5,800千円となった。今後は、日本連盟コミッショナーの方針を受け、記章等を含む販売などのフルラインナップでの正式オープンを２０２０年４月１日に行う予定である。

４．組織内の販売強化、商品開発を推進する。

史上初のＷＳＪ派遣員への限定販売品などの開発により、前述の販売実績を得た。また、派遣員支給品なども従来のものではなく、新しい形などを提案し、採用。派遣員はもちろんのこと、現地での反響も大きかった。また、組織内への販売強化に関してはOnline Shopの開設など、多くの加盟員が気軽に購入可能な環境の開発を行った。

このほか、スカウト用品経営会議（特別委員会）の下に設置した「スカウト用品特別委員会」を１回開催した。今後は、販売強化・商品開発を行う組織を検討する。

また、(株)モンベルと共同でのバッグ開発および共同ブランドなどの検討を開始。２０２１年春を目指し、開発中である。

今後は１３ＮＡや１００周年に向けた用品の開発に、より力を入れていく。

５．ショップ運営の効率化

スカウトショップ東京への来店者数などを時間別や曜日別、売り上げ別に分析を行い、週２日の定休日を設定。平日は来店者の利便性を考慮し、営業時間を従来の9:00-19:00から10:00-19:30に変更した。また働き方改革を行う中で、定休日や時差出勤を設けることにより、人件費削減につながった。

６．契約等の見直し

前述のとおり、２０１９年２月にボーイスカウト日本連盟との書籍販売に関する契約を見直し、適正化した。また、組織内への販売強化やスカウト運動への貢献などを考慮し、各県連盟との新卸販売価格の契約を２０２０年４月に向けて準備中である。

７．消費税増税への対応

２０１９年１０月に施行された消費税増税（10%）への対応を行った。

以　上

そなえよつねに